

# 令和5年度第2回愛媛県がん診療連携協議会がん相談支援専門部会

## Web会議 議事次第

令和6年1月18日(木) 13:30~15:00

挨拶 部会長、副部会長、実務者代表、県担当者、患者団体代表

### I. 報告・協議事項

1. 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会報告  
(第21回 11/24 オンライン配信) 福島 美幸 (四国がんセンター)
2. 「若年がん患者在宅療養支援事業」「ウィッグ及び胸部補正具購入費助成事業」、「小児・AYA世代のがん患者の妊孕性温存療法研究促進事業」等の県内動向について  
田坂 慎太郎 (愛媛県健康増進課)
3. 愛媛県がん対策推進計画の改定について  
田坂 慎太郎 (愛媛県健康増進課)
4. 都道府県がん診療連携協議会四国ブロック会より  
松岡 誠子 (済生会今治病院)
5. 都道府県がん各ワーキングからの報告
  - 1) 相談員研修 WG 福島 美幸 (四国がんセンター)
    - ・第1回 QA 研修「相談対応の質保証を学ぶ」について報告
    - ・第2回研修会開催について (予定)  
日時【令和6年3月16日(土) 13時~17時00分】場所【四国がんセンター 現地開催】  
テーマ【〜がん相談員が行う診断期の意思決定支援〜】  
※「認定がん専門相談員制度」におけるⅢ群研修の単位認定
    - ・(香川県・徳島県主催)【令和5年11月11日(土)】参加協力報告  
「情報から始まるがん相談支援」研修〜地域展開版〜オンライン開催  
開催方法：オンライン (Zoom)
  - 2) 広報活動 WG 大西 明子 (四国がんセンター)
    - ・フィードバック体制意見交換会【2023年11月30日(木) 15:00~17:00 オンライン】
  - 3) チェックリスト WG 和田 美恵子 (住友別子病院)
    - ・今年度の活動実施状況
  - 4) サロン担当者 WG 関木 裕美 (四国がんセンター)
    - ・愛媛県がんサロン担当者の交流会開催【2023年10月31日(火) 14:00~16:00 オンライン】

### II. その他

1. 2023年度愛媛県災害時連絡シミュレーション実施状況について (7/26)

2. 来年度 実務者代表交代について
3. セミナー案内
  - ◆（医療者向け）愛媛県地域医療関係者向けアピアランスケアセミナー  
みんなではじめよう！がん患者の外見変化への支援（現地開催 ONLY）開催の案内（2024/1/20）
  - ◆（患者向け）希少がん 第1回中皮腫セミナーin 四国-治療と社会保障、患者会について-ハイブリッド開催の案内（2024/1/27）
  - ◆（患者向け）胃がん啓発 2024 あなたにとって最適な治療につながるために～19年ぶりの患者向け胃がん治療ガイドライン発行企画～ハイブリッド開催の案内（2024/2/17）
4. その他（各施設から周知事項）
5. 今後のスケジュールについて  
全体報告会 オンライン開催 2/3（土）

議事録担当：市立宇和島病院（次回は HITO 病院）

## 第 21 回都道府県 がん診療連携拠点病院連絡協議会

### 情報提供・相談支援部会 議事要旨

日時：2023 年 11 月 24 日（金）13:00-16:00

開催形式：オンライン開催(Zoom ミーティング)

#### 1. 開会の挨拶

(国立がん研究センターがん対策研究所 副所長 祖父江 友孝)

副所長として当部会での挨拶は初めてだが、相談支援センターの責任者の方々に集まっていただき、大変ありがたい。本日は相談支援業務を含め、拠点病院の整備指針が改定されて1年が経過した変化と課題の報告、基本計画の第4期に採用されたロジックモデルについての説明、PDCAの実施状況のチェックリスト、認定がん医療ネットワークナビゲーターの紹介の他に、相談員研修や認定事業の話題にも触れるなど、盛りだくさんの内容になっている。積極的なご参加をよろしく願いたい。

#### 本日の出席者について

(情報提供・相談支援部会事務局／国立がん研究センターがん対策研究所 宮本 紗代)

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会参加施設の情報提供・相談支援の責任者またはそれに準ずる方、実務者の方々、計114名に加え、小児がん拠点病院相談支援部会の相談員、都道府県のがん対策主管課の皆様にも、オブザーバーとしてご参加いただいている。

#### オブザーバー紹介 (がん対策研究所 宮本)

NPO法人 がんサポートかごしま 理事長 三好 綾 様

認定特定非営利活動法人 がんサポートコミュニティー 事務局長 大井 賢一 様

#### 2. 厚生労働省より挨拶

(厚生労働省 健康・生活衛生局 がん・疾病対策課 相談支援専門官 戸石 輝様)

第4期がん対策推進基本計画では、ロジックモデルを採用し、アウトカムなどを明確にしたがん対策を推進している。相談支援や情報提供においては、がん相談支援センターの認知度の向上、相談支援体制の整備を持続可能なカタチで進め、国民が正しい情報に辿り着けるよう、取り組んでいただいている。

それゆえ本日の話題も現在のがん対策において非常に重要なものと認識しており、皆様が本日の部会で得たものをぜひ実践し、さらに得られた知見を我々とも共有していただけるようお願いしたい。

#### 3. 本日の概要 **資料 3** スライド 2

(都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会 部会長／

国立研究開発法人 国立がん研究センターがん対策研究所 がん情報提供部長 井上 真奈美)

#### 4. 新整備指針発出後 1 年経過しての変化と課題

##### ・アンケート結果の共有 **資料 3** スライド 5～26

(がん対策研究所 宮本)

##### ・ディスカッション

(がん対策研究所 井上部会長)

1つ目の論点として、病院を挙げての患者支援を浸透させるにはどうしたらいいのかという点についてディスカッションを進めていきたい。整備指針発出後、7～8割の拠点病院では特に相談支援センターの周知面での変化が大きいと思われる、興味深い事例についてこちらから指名し、詳細をご紹介いただきたい。

まず茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンターにおいて、化学療法のオリエンテーションの際に相談支援センターの面談を組み入れているという事例について共有いただきたい。

(茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター 馬込委員)

茨城県立中央病院では化学療法センターや放射線治療センターでの初回オリエンテーション後に必ずがん相談支援センターに誘導してもらい、困り事の相談や制度、仕事について案内している。

また生活のしやすさに関する質問表を用いたスクリーニングを実施し、化学療法センターや放射線センターでそれぞれ週1回、課題を見出すためのカンファレンスやAYA世代のスクリーニングを実施し、専門家の介入希望の場合は適切な部署と連携している。

(がん対策研究所 井上部会長)

1つの大きなキャンペーンなどではなく、地道な1つ1つの積み重ねという理解でいいだろうか。

(茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター 佐久間委員)

放射線や化学療法センターのスタッフに働きかけて、患者さんにとって相談できるがん相談支援センターという場所があることの周知に協力してもらっている。

(がん対策研究所 井上部会長)

次に信州大学医学部附属病院から、相談件数が多い診療科と連携強化した結果、相談件数が2022年比160%に増加した事例のご紹介をいただきたい。

(信州大学医学部附属病院 篠之井委員)

事務部門と協力して初診患者数が多い診療科を抽出し、相談件数が多い診療科とクロス集計のような取り組みを行った。これらのデータを持って乳腺外科に先生方に説明して、協力いただいた結果、相談件数が増えた。またこの取り組みを通して、診療科の先生との間で定例会をやるという提案もあり横断的に話し合いができる機会にもつながった。また、看護師を通じて他の診療科にも草の根的に取り組みを広げることができている。

(がん対策研究所 井上部会長)

横断的にエビデンスを共有することが取り組みを広める上で大事であること、ちょっとしたことで改善につながっていくことが感じられた。

次に福井県立病院においては、初診の患者さんに対して待ち時間を利用して相談員が施設案内や面談を行っているということと、病棟のカンファレンスに参加して相談件数が2倍になったという事例のご紹介をお願いしたい。

**（福井県立病院 田中委員）**

当院では乳腺、胃、大腸、肺、血液のがんについて、がん医療センターという別の建物で診察を行っており、初診の方には身長と体重測定の流れでがん相談支援センターを周知するようにしている。また待ち時間を利用して院内の説明やがん相談支援センターの紹介をしており、「待ち時間を有効に過ごせて良かった」という感想もいただいている。また病棟からがん相談支援センターに異動した看護師と連携の深い病棟のカンファレンスに週4日参加している関係で、その病棟からの相談が倍に増えたという経緯がある。

**（がん対策研究所 井上部会長）**

大変興味深い取り組みだと思う。相談しやすい状況を自然に増やすことにもなっており、できることを少しずつ行っていくことが改善につながると感じられた。

次のディスカッションの論点は、病院としての情報提供体制を整えていくには、ということで好事例や課題の共有をお願いしたい。島根大学医学部附属病院から、情報が必要な患者をスクリーニングし、より詳しい情報提供をすることができていないのが課題という回答をいただいていた。説明をお願いしたい。

**（島根大学医学部附属病院 今岡委員）**

当院では、院内外で連携して相談対応する体制も進んできたかと思うが、詳しい情報を必要とする患者さんにそれらが届く仕組みができていない部分があると思われる。先ほどの生活のしやすさのスクリーニング表で心理面、身体面、経済面での相談対応の仕組みづくりはできたが、がんゲノムや臨床試験については生活のしやすさのスクリーニング表だけでは不十分だと思われ、課題に感じている。どう関わりとよいか等教えていただきたい。

**（がん対策研究所 井上部会長）**

このような専門領域に関わる話を情報提供していくのは難しく、この場で解決できない話かもしれないので、問題提起として今後フォローしていきたい。

次に福井県立病院から、スクリーニングの機能はあるが、スタッフの認知度が低く十分活用されていないという点についてご紹介いただきたい。

**（福井県立病院 田中委員）**

当院でも島根大学の方と同様のスクリーニング表を使っているが、まだうまく機能しておらず、今後について相談員間で話し合っている状況。

**（がん対策研究所 井上部会長）**

こちらでもスクリーニング機能をスタッフの認知度に結びつけられないということでの重要な問題提起かと思われるので、今後の検討事項として部会の中でフォローしていきたい。

アンケートでは駒込病院から、マンパワーの確保が難しい中でデジタルやシステムを有効に活用したいが、活用するにもハードルがあるとの問題点をあげていただいた。詳細をご紹介いただきたい。

**（東京都立駒込病院 山内委員）**

地域から提案があり、当院でも各職種で情報共有できるような患者システムとして、MCS

( MedicalCareStation ) の利用を検討したが、東京都の病院では患者情報をLANに乗せてはいけないという規定があり、幾らセキュリティが万全でも、共有手段は電話やFAX、郵送という旧時代の手段になってしまう。情報提供体制を整えていくためにも、DX時代において遅れている医療界全体をどうしていくのか考えていくことが必要。

(がん対策研究所 井上部会長)

個人情報を守るという意味で患者情報をネットに乗せることが難しいのは確かだが、世の中の発展と共に矛盾がどんどん拡大している感も否めない。何か共有いただける事例があればお願いしたい。

(東北大学病院 青木委員)

東北大学病院では震災をきっかけにMMWINというものが導入されている。大学病院と他の地域のクリニックをつなぐIDカードで、大学病院を中心に発信しているが、地域のクリニックではまだ十分活用できていない。私自身も説明できるほど詳しくはないので情報の提示だけに留めたい。

(東京都立駒込病院 山内委員)

私どもの病院でも模索が続いている。最終的にはマイナンバーカードで、こちらの推進が進めば情報共有ができるかもしれない。災害時には一元化されていることが重要だし、セカンドオピニオンの情報共有にも役立つと思われる。これらは今後の夢を含めての話だが、いまのところは当院としてのDX対応はかなり厳しいと言わざるを得ない。

(がん対策研究所 井上部会長)

病院でできることできないこと、できない場合どのレベルから後押しすれば実現するかにも関係することで、大変重要な課題をご提示いただいた。こちらも今後ともフォローアップしていきたい。

## 5. ロジックモデルの目標と評価の考え方 資料 3 スライド 28～49

(国立がん研究センターがん対策研究所 副所長 祖父江 友孝)

## 6. PDCA実施状況チェックリストの今後の活用方法の検討

・NCCから検討内容の共有 資料 3 スライド 51～64

(国立がん研究センターがん対策研究所 情報提供・相談支援部会事務局 小郷 祐子)

### ・ディスカッション

(がん対策研究所 井上部会長)

ディスカッションの論点は2つ。1点目は今後、全拠点病院を対象とした部会アンケートの形でチェックリスト項目への協力を呼びかける形でもいいかどうかについてご発言があればいただきたい。

(兵庫県立がんセンター 伊藤委員)

全拠点病院を対象としたアンケートはどのぐらいのスパンで行う予定なのか。また兵庫県では前回のPDCAチェックリストを土台にして独自につくっているものがあるが、今回のものにも県独自の内容を追加して使っていいかどうかについて聞かせいただきたい。

(がん対策研究所 小郷)

アンケートのスパンは2～3年に1回ぐらいのタイミングで取っていただければと考えている。2点目の県独自に追加する件については、ぜひとも追加していただきたいと思っている。

(がん対策研究所 八巻)

アンケートについては全国一斉でやるとなると頻回にはできないので、実際のタイミングは今後のご相談次第であるが、ある程度まとまったスパンになると思われる。都道府県独自の項目でのチェックというのはもちろん望ましい形だと思うので、全国集計は都道府県独自の取組みを妨げることのないように行いたい。

(がん対策研究所 井上部会長)

次に2番目のディスカッションの論点として、「相談員から管理者にチェックリストの評価を依頼するのが負担」という声が多いことを受けて、NCCから管理者にこのように働きかけてもらいたい等のご意見があればいただきたい。

(がん対策研究所 小郷)

案としてスライドに記載の通り、依頼文書の中に整備指針の文言を含め、病院長宛てに直接郵送させていただくぐらいが妥当なところかと考えている。病院長の先生方にこういったものがあることを周知し、協力していただけるような働きかけを部会事務局としても行っていきたい。

(がん対策研究所 井上部会長)

やはりそれが一番現実的ではないかと思われる。早く対応できるような状況で医療機関に依頼が出せればと考えている。

## 7. 日本癌治療学会認定がん医療ネットワークナビゲーター制度について **資料 3** スライド 66～79

(熊本大学病院 がんセンター・外来化学療法センター 教授 野坂 生郷先生)

## 8. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について **資料 3** スライド 81～93

(相談員研修事務局／国立がん研究センターがん対策研究所 櫻井 雅代)

## 9. その他

### ・オブザーバーからのコメント

NPO法人がんサポートかごしま 理事長 三好 綾 様

私からは4点お伝えしたい。

1点目は新整備指針について、鹿児島県でも同様のアンケートを取ったときに、ゲノム情報や妊孕性の情報が100%に達しない結果であった。こういった治療や生活に直結する情報は非常に大切であり、100%に近い情報提供を今後もお願いしたい。

2点目はロジックモデルについて、実は鹿児島県ではまだ全然進んでおらず、ぜひ国立がん研究センターの皆様や祖父江先生のほうから今一度都道府県に頑張るようお伝えいただきたい。

3点目はナビゲーターについて、私たちピアサポーターとは棲み分けが難しいと感じている。また、具体的にどう連携したらよいのか患者会としてもわかりにくく、さらなる説明をお願いしたい。

4点目は都道府県でも計画をつくっているところだが、地域性が非常に関わる場所であり、各地域に合わせた情報提供の取り組みを今後ともぜひお願いしたい。患者会やピアサポーターとの連携についても、全国的にも進んでいくことを強く願っている。

本日はありがとうございました。

#### 認定特定非営利活動法人がんサポートコミュニティ 事務局長 大井 賢一 様

本日はたくさんの情報をいただいたが、相談支援については、第2回がん緩和ケアに係る部会（令和3年9月開催）より2017年のデータとなるが、がんの診断が行われる病院は51.6%が「がん診療連携拠点病院」で、48.4%が「その他の病院」となっている。

また2018年の患者体験調査（対象：院内がん登録実施施設での2016年診断患者）によると、がん相談支援センターの認知度は「知らない」が33.6%、「知っている」が66.4%、知っていると答えた方のうち、がん相談支援センターを利用したことが「ある」人が14.4%、またそのうち86.9%の方が「役に立った」と回答しており、利用者の満足度が高いことがうかがえる一方、本調査対象外の医療機関にかかっている患者への支援と、地域・社会への広報が大きな課題であると感じる。

また支援活動を通して、地域によって患者さんの通院のための可動範囲に差があることがわかっており、東京圏では30キロメートル、東病院の所在地である柏市では10キロメートル、大阪では30分圏内となっている。患者はそのエリアの中で動いているということも十分考慮して相談員は活動していただきたいし、多くの相談員が地域の中で発信できるような機会をもっと作っていただければと考えている。ありがとうございました。

・連絡事項 資料 3 スライド 95

## 10. 閉会の挨拶

（がん対策研究所 井上部会長）

本日は相談支援やPDCAチェックリストについて様々な課題をいただいた。また、がんゲノムや臨床試験、妊孕性の問題については我々のほうで十分対応できていない現状がよくわかった。これらは当部会だけでは対応できない事案と考えられるので、統括する上の親会にもきちんと諮って、どのようにすればいいか意見交換し、またその結果を部会に持ち帰って議論させていただきたい。

今後も情報提供、相談支援の強化と質の向上に向けてさらに努力していきたいと考えているので、これからも引き続きご支援をお願いしたい。

本日はどうもありがとうございました。

以上



認定がん相談支援  
センターって？

準備は何から  
始めたらいいの？

メリットはなに？

これらの疑問に答えます！

# 認定がん相談支援センター 説明会

2024年

1月29日(月) 16:00～17:00

17:00～17:30 希望施設のみ個別相談会あり

## 認定がん相談支援センターとは

がん相談支援センターの中で一定の基準を満たした施設を  
「国立がん研究センター認定がん相談支援センター」として  
認定しています。

認定センターのロゴマーク



## プログラム

### 講演

- ・認定がん相談支援センターの目指す姿 (認定事務局)
- ・認定がん相談支援センターの申請に必要な取り組みと取得後のサポート体制
- ・認定がん相談支援センター申請準備の実際 (鳥取県立中央病院 藤松義人さん)

### パネルディスカッション

- ・「取ってよかった?! 認定センター」  
(市立豊中病院 宮本美和さん、加古川中央市民病院 出口直子さん、九州病院 三好典子さん)

## 主催・お問い合わせ

国立がん研究センターがん対策研究所  
認定がん相談支援センター 認定事務局

E-mail : [cisep-office@ml.res.ncc.go.jp](mailto:cisep-office@ml.res.ncc.go.jp)

## 申し込み方法

以下のURL,もしくはQRコードから  
お申込みください。

期間:

12月18日～1月12日まで

<https://contact.ganjoho.jp/form/pub/ganjoho/setsumeio129>



# 愛媛県がん対策推進計画の概要（案）

## 1 計画策定の趣旨

日本人の2人に1人ががんに罹り、3人に1人が、がんで亡くなると言われる中、本県においても、依然として、がんは死亡原因の第1位(R4:がん死者数4,550人(全死亡者数の22.8%))を占めており、県民の生命や健康に対する重大な脅威と言える。第2期計画から6年間の様々な取組みにより、医療・相談支援等の体制整備は着実に進み、令和4年の75歳未満年齢調整死亡率は69.7と、平成28年から10以上低下したものの、全体目標として掲げた67.9以下には届かなかった。

本計画では、がん患者等に対する社会的支援の充実等の新たな課題にも対応しつつ、引き続き、予防・医療・共生を柱とした総合的ながん対策に県民総ぐるみで取り組み、「がんになっても安心して暮らせる地域社会」の実現を目指す(計画期間:令和6年度から6年間)。

## 2 基本方針

- 1 がん医療の均てん化及び効率的かつ持続可能ながん対策の実現
- 2 がん患者を含む県民の視点に立ったがん対策の実施
- 3 予防・医療・共生を柱とする県民総ぐるみのがん対策の推進

## 3 本県独自の取組み

- 1 在宅緩和ケア推進モデル事業の効果検証と県内全域への普及
- 2 がん登録を活用した研究の推進（地域課題の把握と対策の立案）
- 3 がん患者の就労継続に向けた支援の充実
- 4 高校生が療養中も切れ目なく教育を受けられる環境の整備

## 4 全体目標

### I 【予防】科学的根拠に基づくがんの予防・がん検診の充実

- (1) たばこ対策・生活習慣の改善（1次予防）
- (2) がん検診の受診率向上（2次予防）

### II 【治療】患者本位の安全・安心で質の高いがん医療の提供

- (1) がん医療提供体制等の充実
- (2) 希少がん及び難治性がん対策の推進
- (3) 小児がん及びAYA世代（※）のがん対策の推進（※AYA世代: Adolescent and Young Adult…本計画では15~39歳としている。）
- (4) 高齢者のがん対策の推進
- (5) 新規医療技術の速やかな医療実装
- (6) 人材育成と教育環境の整備
- (7) がん登録の充実と活用促進

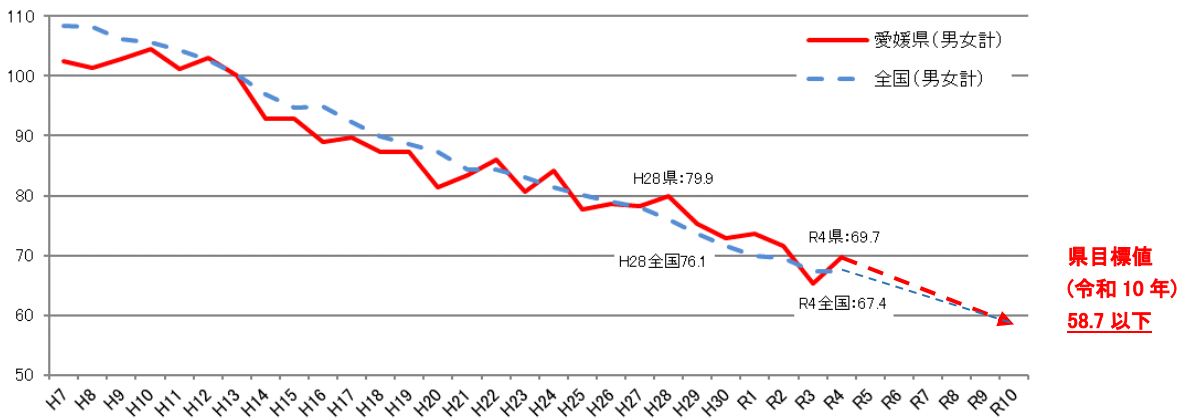
### III 【共生】がんになってもお互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会の実現

- (1) 相談支援及び情報提供
- (2) 社会連携に基づくがん対策
- (3) がん患者等の社会的な問題への対策（サバイバーシップ支援）
- (4) ライフステージに応じた療養環境への支援
- (5) がん教育・がんに関する知識の普及啓発

ロジックモデルの活用によるPDCAサイクルの実効性の確保

## ◎ 予防・医療・共生を柱とした総合的な取り組みにより、死亡率58.7以下を目指す！

[ 県民総ぐるみの総合的な取り組みにより、死亡率の低下を加速させ、全国平均以下とする。 ]



県目標値  
(令和10年)  
**58.7以下**

	← 実績						目標(愛媛県) →						
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
愛媛県	79.9	75.2	72.8	73.6	71.5	65.2	69.7	67.8	66.0	64.2	62.4	60.5	58.7
全国	76.1	73.6	71.6	70.0	69.6	67.4	67.4	65.9	64.5	63.1	61.6	60.2	58.7

※全国において平成28年から令和4年までの6年間の低下率を維持した場合の6年後の数値58.7以下を目指す。

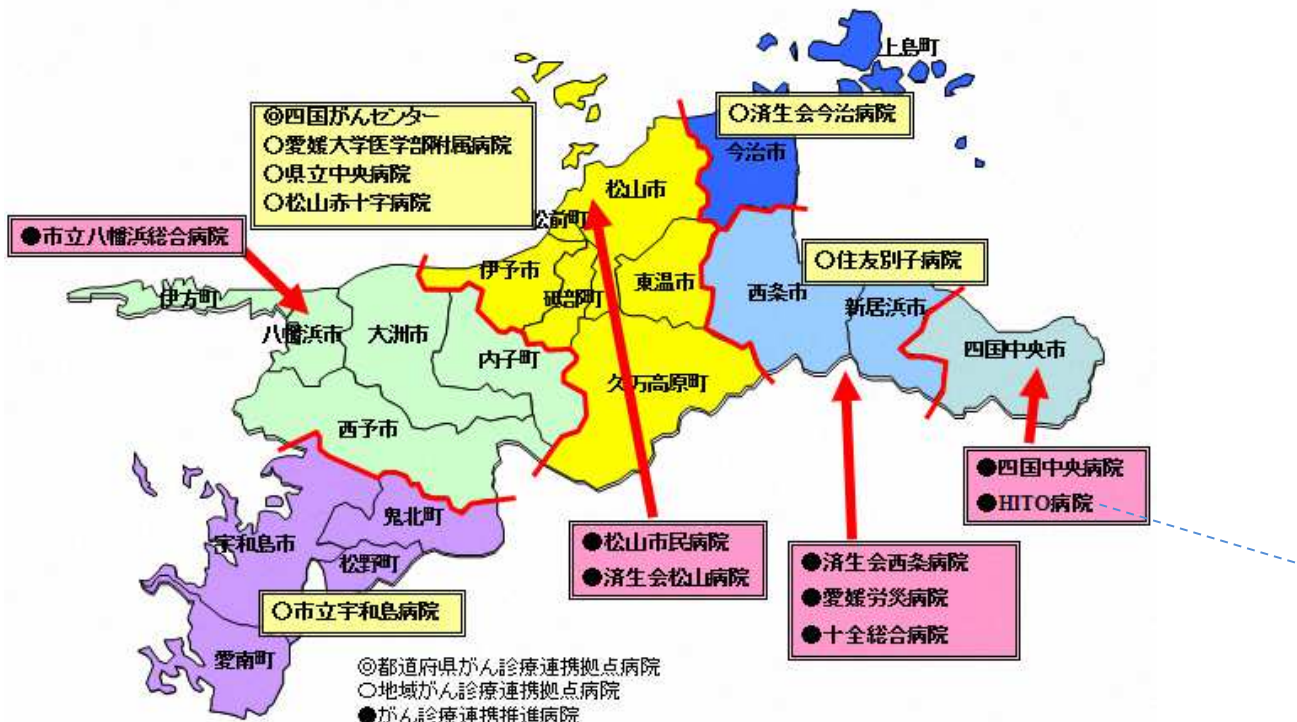
(令和4年までの実績は、国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」より)

### 5 計画を推進するために必要な事項

- (1) がん対策に係る関係者(県民、行政、医療機関、検診機関、事業主等)の役割と協力
- (2) 県民総ぐるみのがん対策の推進

## ◎ 本県のがん医療提供体制の概要

国指定のがん診療連携拠点病院(拠点病院7病院)や県指定のがん診療連携推進病院(推進病院8病院)において、専門的ながん医療が提供されているほか、がん相談窓口が設置され様々な相談支援・情報提供等に取り組んでいる。



- ◎都道府県がん診療連携拠点病院  
がん診療の質の向上及び医療機関の連携協力体制の構築に関し、各都道府県のがん医療の中心的な役割を担う医療機関で、愛媛県では四国がんセンターが指定されている。
- 地域がん診療連携拠点病院  
二次医療圏単位を目安に指定され、地域のがん医療の拠点としての役割を担う医療機関で、愛媛県では、愛媛大学医学部附属病院等6病院が指定されている。
- 愛媛県がん診療連携推進病院  
国指定の「拠点病院」の機能・役割を補完し、がん診療の中核的役割を担う医療機関の裾野を拡大するため、県独自に拠点病院に準ずる診療機能を有する8病院を指定している。拠点病院のない宇摩圏域及び八幡浜・大洲圏域にも指定しており、がん医療提供体制の均てん化を進めている。

# 令和5年度第1回愛媛県がん相談員研修会オンライン QA 研修 「相談対応の質保証(QA: Quality Assurance)を学ぶ」 活動実施報告書

記載者: 佐伯祐希子

## I. 企画概要

### 1. 企画名

令和5年度第1回愛媛県がん相談員研修会  
集合研修「相談対応の質保証(QA: Quality Assurance)を学ぶ」

### 2. 主催

愛媛県がん診療連携協議会 がん相談支援専門部会 がん相談員研修ワーキング

### 3. 目的

- ・がん相談支援センターにおけるPDCAサイクル確保の一環として、相談対応の質保証と向上のための観点を学ぶ。
- ・また、これらの学びを施設で活用し、施設の相談対応の質向上に還元できる人材の育成を目的とする。

### 4. 講師

愛媛大学医学部附属病院 塩見 美幸先生

### 5. 開催日時

2023年9月2日(土)13:00~17:00

### 6. 開催方法

集合研修  
(会場)四国がんセンター 地域連携研修センター3階 研修室1  
愛媛県松山市南梅本町甲160番地 (TEL)089-999-1111

### 7. 受講対象者(受講定員20名、受講者15名、欠席0名)

- ・愛媛県内を中心に全国の拠点病院・がん診療連携推進病院のがん相談支援センター相談員
- ・がん相談に従事する相談員(医師、看護師、MSW、心理士等)

#### 【受講者15名の内訳】

(施設別)県内12名(拠点病院名、推進病院名)、県外3名  
(職種別)看護師10名(県内7名、県外:香川県2名徳島県1名)、MSW5名(県内5名、県外0名)

### 8. 参加条件

- ・初めての方は事前課題の前にeラーニング受講をすましておくことができる方
- ・事前課題(模擬相談を聞いて、評価表のチェックを研修会までに各自で実施)を当日までに実施しておくことができる方

### 9. 内容

#### <学習目標>

- ① がん相談対応評価表(以下「評価表」)の活用方法、目的、意義、ルールを理解する
- ② グループワークでは互いの意見を尊重し合い積極的に参加する
- ③ グループワークで得た学びを自己の相談対応の改善に適用する
- ④ 評価表を活用したディスカッションにおけるルールを遵守することの重要性を学ぶ
- ⑤ がん相談支援の質の管理と維持に必要な課題を説明する
- ⑥ 施設や地域で相談対応の質の向上を図るための課題を具体的に討議し、今後の取り組みを考える

10:00~11:30 (90)運営委員、ファシリテーター、講師打ち合わせ

11:30~12:30 (60)昼休憩

12:30~12:50 参加者受付

13:00~13:10 (10)オリエンテーション・開会挨拶 愛媛県がん診療連携協議会がん相談支援専門部会  
副部会長(四国がんセンター 長谷部昌先生)

13:10~13:40 (30)講義①がん相談対応評価表:目的・意義・ルールを理解する

- 13:40～13:50(10) 自己紹介・アイスブレイク  
「氏名、参加県、所属、職種」と「コロナ禍から解放されてこの夏トライしてみたこと、楽しかったこと」を1人2分で自己紹介をする
- 13:50～15:05(75) グループディスカッション① 評価表を利用した意見交換
- 15:05～15:37(32) 全体共有① ※20分予定であったが12分超過
- 15:37～15:45(7) 休憩 ※15分予定を7分に短縮
- 15:45～16:10(25) 講義②「がん相談支援の質」を考える～組織における「品質管理と品質保証～」
- 16:10～16:35(25) グループディスカッション② 自施設や地域で取り組める内容についての意見交換
- 16:35～16:55(20) 全体共有②・質疑応答
- 16:55～17:00(5) 閉会挨拶・アンケート記入案内・事務連絡等 ※10分予定を5分に短縮
- 17:10～18:00(50) 運営委員、ファシリテーター、講師振り返り会

## 11. 事前課題

- ・本研修では、受講者が事前課題に取り組む必要がある。事前課題は、受講予定者宛に事前事務連絡と合わせて連絡する。
  - ・初めてQA研修を受講の方は、下記評価表のチェックの前に事前eラーニングの受講をお願いする。
  - ・受講者は全員、取り扱い事例:7を聴き、逐語録を見ながら評価表のチェックを研修会までに済ませて当日はチェック済の評価表を持参(準備)する。
- ※事前メールで数回案内を行い、視聴URLや添付資料が開かない等不具合に対応した。

## 12. Ⅲ群登録

本研修は、国立がん研究センターが実施する「認定がん専門相談員制度」におけるⅢ群研修の単位認定申請を行い承認された。

## 13. 事務局スタッフ(1名)

メイン会場: 四国がんセンター、安宅麻美弥(事務局事務)  
リモート: 愛媛大学医学部附属病院 塩見 美幸

## II. ワーキングの打ち合わせ・振り返り会

打ち合わせ会(10:00～11:30) 振り返り会(17:10～17:45)

### 1. 研修全体と運営について

・急遽講師がリモート参加となり、会場とハイブリッドで開催することとなったが、カメラ・マイクを乗せた台を移動されながらリモート参加の講師とも臨場感が共有でき、比較的スムーズに進行できた。打ち合わせ会も研修会場で行い操作の確認を行った。グループワーク中は、リモートの講師には参加者の声が雑多で聞き取りづらかったとの感想があった。開始前に講師からリモートで音楽を流しリラックスした雰囲気があり良かった。今後も工夫したい。開始後は、講師・ファシリ・運営スタッフLINEで確認事項を共有することとした。

### 2. 講義について

・打ち合わせ会で、全体の進行やグループワークのポイントについて、塩見先生から説明していただいた。講義に入る前に、参加者から申込時に「この研修で学びたいこと」を記載してもらっていたので、この研修で達成できることやグループ内でヒントが得られるかもしれないこと、この研修では達成できないことについて整理し1枚資料を追加して案内をした。

### 3. グループワークについて

#### 【打ち合わせ会】

- ・書記や発表者は決めずにグループワークをすすめる。
- ・タイムキーパーは決めずに時間管理はメンバーで行う。終了5分前に塩見先生より声がかかる。
- ・どの評価を付けたかよりは、代替案ができるように発言を促すことを共有した。
- ・初めての参加者もいるので、グループに苦勞はさせない方向でサブファシリ発言は、4番目位がよい。
- ・事例提出者がその場にいると想定しネガティブな意見が多い場合は、サポートティブなコメントを心掛けることを共有した。
- ・グループワーク①後の休憩時間はファシリも休憩し次のワークに備え、全体共有の打ち合わせはしないこととした。発表時には、他に良い意見が出ている際はファシリからも積極的にサポートティブな意見を追加することを共有した。



### 【振り返り】

- ・久しぶりの集合研修だったので、参加者より楽しかったという意見が多く聞けてよかった。
- ・時間管理について、ファシリテーターが時計がみえない位置に座席してしまった。タイムキーパーが必要かもしれない。
- ・ファシリ自身の学びにもなった。
- ・ファシリテーターだけでなく、サブファシリテーターも加わり、ともに協力して進行することができた。
- ・周りのグループワークの声でグループワークの声が聞き取りにくかったとの意見もあったため、もう少しグループ間の距離を持つよう配置を考慮する。

### Ⅲ. アンケート調査集計 ※詳細は添付資料参照(アンケート結果より)

#### 1. 受講者背景 ※より抜粋

- ・病院の種類の内訳は、がん診療連携拠点病院が 94.7%、がん診療連携拠点病院が 5.3%をしめた。
- ・主たる資格別(複数回答)でみると、57.9%が看護職、42.1%が福祉職であった。
- ・研修参加の動機(複数回答)は、「職務上必要と感じた」、「自己研鑽」、「テーマが面白そうだった」との意見が多い。このように自発的に参加した研修生は「また参加したい」との意見だったが(一人条件付き)、「勧められ」て参加した研修生のみ、次回参加について「あまりそう思わない」とのことだった。理由は不明。

#### 2. 研修目的の理解・満足度 ※より抜粋

- ・「8.理解できたか」について、全体では「とてもそう思う」68.4%、「そう思う」31.6%であった。そのうち『参加あり』の方は「とてもそう思う」78%、「そう思う」22%、『参加なし』の方は「とてもそう思う」60%、「そう思う」は 40%という結果であり、『参加したことがある』の方が理解度が高く、満足度も『参加したことがある人』の方が高かった。
- ・複数回受講やその後のモニタリング経験により学びを効果的に得ることができる研修会であることがわかった。

#### 3. 受講者からの意見 ※より抜粋

##### 【良く分かった・印象に残った点】

- ・「楽しかった」と回答した人 9 名。多施設、多職種、経験の違う人の意見が聞けて良かった、話しやすい雰囲気、心理的安全性が保たれていたという意見もあった。

##### 【理解しにくかった点】

- ・とてもいい研修なのですが、事前課題にかかる時間が比較的多く、他の方に紹介するのにややハードルが高い印象を受けたという意見もあった。

##### 【全体を通して】

- ・講義内容に好評な意見も多数あるが、内容や時間については研修生の参加経験、評価表の活用経験も含めて慎重に検討が必要と思われる。
- ・GW では多施設、多職種等で構成することで視点の違う活発な意見交換に有効と考える。ファシリテーターだけでなく、サブファシリテーターも加わり、共に協力して進行することができた為、良い雰囲気作りにつながったと考える。

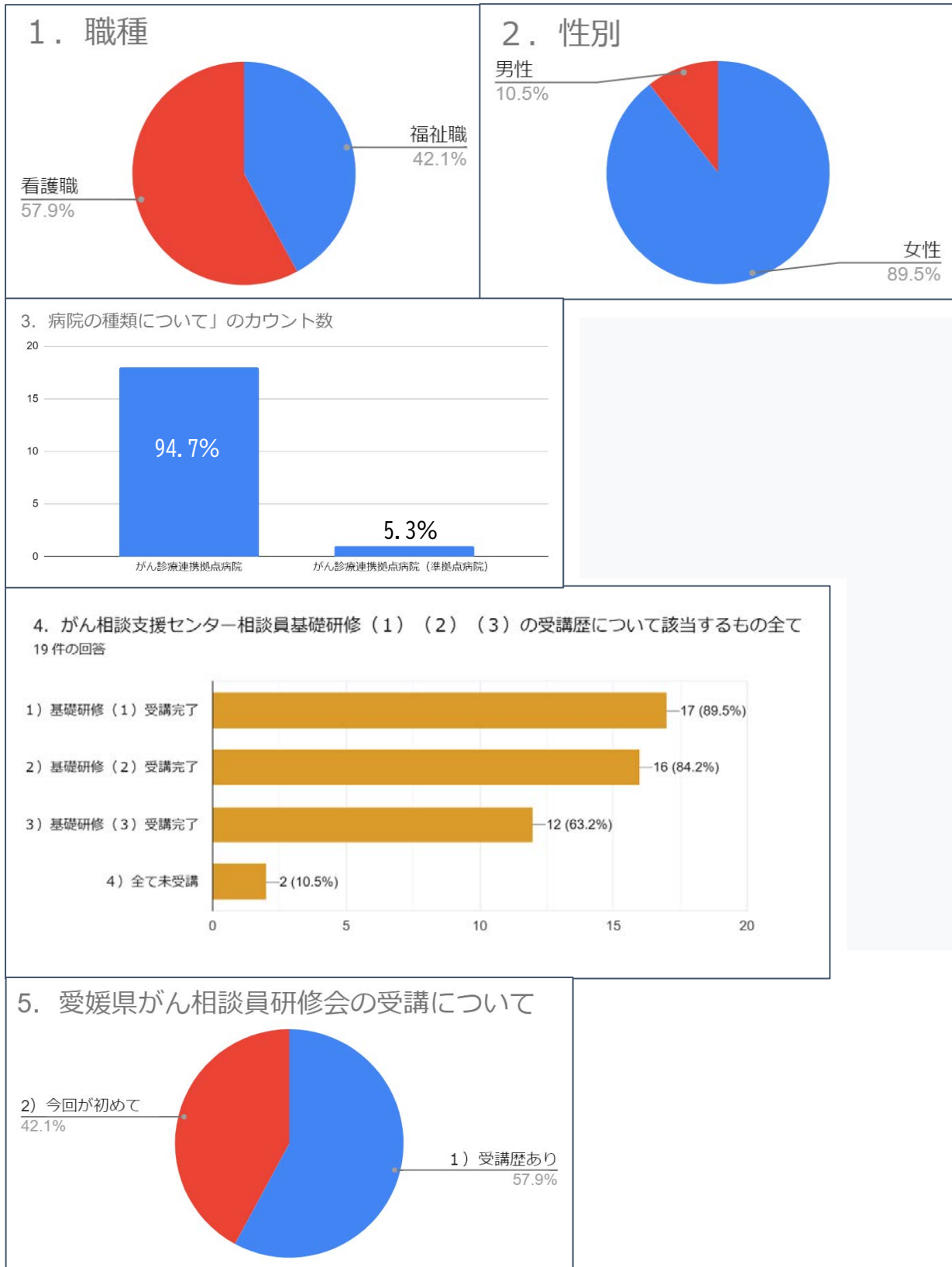
#### IV. 今後の展望

・コロナ禍によりオンライン研修が主流となっていたが、改めて集合研修のメリットを実感した意見も多かった。GW がしやすい環境づくりや、広く参加者を募集する場合は遠方からの参加者に配慮したハイブリッド開催も今後検討が必要と思われる。

・評価表の活用について自施設の今後取り組みそうなことについて様々な意見があった。多施設の取り組みについて愛媛県がん診療連携協議会がん相談支援専門部会等で情報交換しながら、がん相談の質保証のための取り組みを継続していくことが大切である。

令和5年度 第1回愛媛県がん相談員研修会アンケート集計 (2023年9月2日)

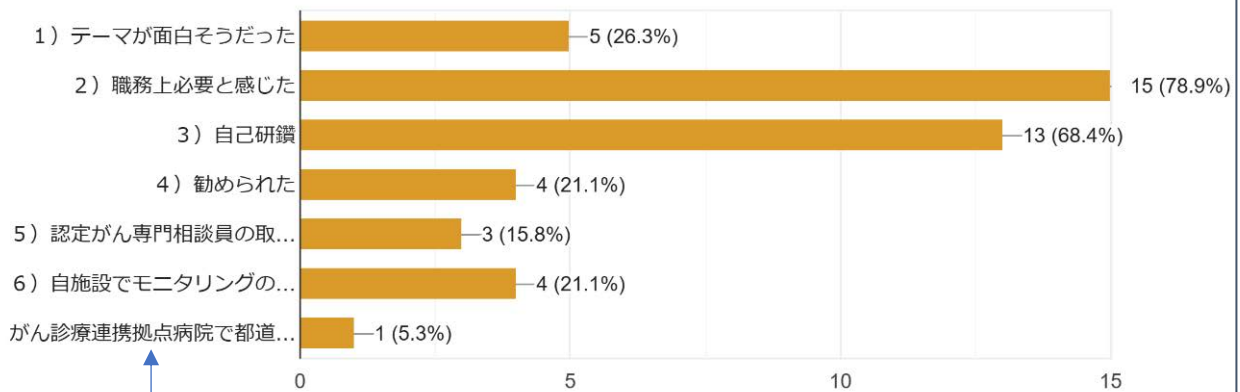
参加者26名(スタッフ含む)/回答者19名 回収率73%





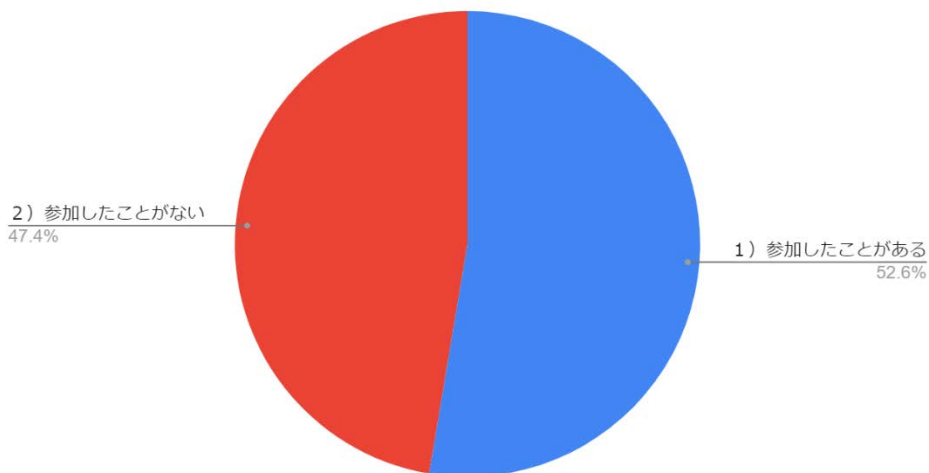
6この研修会に参加した理由（複数回答可）

19件の回答

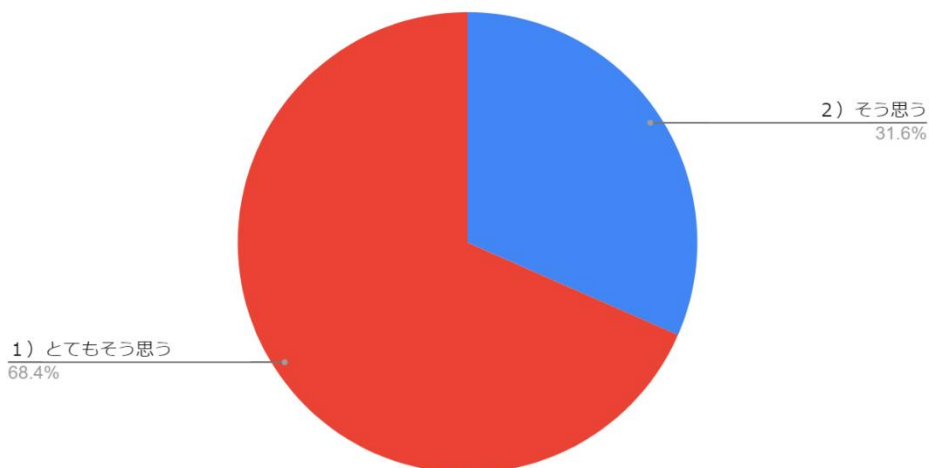


5) 認定がん専門相談員の取得・更新のため 6) 自施設でモニタリングの実施が難しいため  
7) がん診療連携拠点病院で都道府県がん拠点が行う研修の参加が必要という文言が入っているため

7. 評価表を用いた「相談対応の質保証を学ぶ」研修の参加経験について



8. 「がん相談対応評価表～目的・意義・ルールを理解する～」の講義は理解できましたか



※QA 参加歴あり・なしの対比結果は P7 「QA 研修アンケート結果分析」 I を参照

## 9. 評価表を利用した意見交換での感想を教えてください

- ・同じ事もあれば視点の違う意見や評価を聞いておもしろかったです。
  - ・皆さんの意見を聞いて、色々な角度から見る事で違ったニーズに行き着き、そのための聞き取りが必要であること、その大切さを学びました。評価表を用いる事で、視野を広げ相談者の本当に知りたい事、困り事に近付ければと思いました。
  - ・自己評価をすること、ディスカッションすることで自身の相談員としての振り返りができた
  - ・自分は表面的な部分しかみることができていなかったことに気付いて、勉強になりました。
  - ・個々によって様々な視点があり、大変勉強になりました
  - ・初めてチェックした方も経験者も比較的点数より根拠や代替案が出てきたので新しい発見もあり充実していた。
  - ・自分の気づくことができなかつた意見を聞くことができ、大変参考になりました。多職種で多方面からみることで視野が広がったと実感できました。
  - ・活発な意見交換がなかなかできなかった
  - ・事前課題を行い、自分で整理してきたので、GWの時間を有効に活用できたと思います。Iの相談員の対応15~17は、原本がそのような記載方法なので仕方ないと思われそうですが、もう少し整理して記載できたらな・・と思いました。行ったり来たり考える中で、何が主訴か、ニーズが混乱してしまうような気がしました。（評価表の改訂に期待です）その他、いろいろな意見が聞けて、参考になり、意見交換は大事だと思いました。
  - ・相談員の職種や経験によって受け止め方が大きく違い、答えが一つではない相談支援の奥深さを実感できて大変良かったです。他の参加された方の良い点を吸収し、患者さんにより柔軟に対応できるように頑張っていきたいです。
  - ・経験豊富な方達の意見を聞いて参考になった。
- 同じ評価表でも評価する人によって異なる着眼点からの意見を聞くことができ良かったです。主訴とニーズについては、バラつきもあり意見交換することで気づきもありました。ただ、発表の仕方など難しさも感じました。
- ・職種、相談員経験年数、個々の感性で意見がたくさんあり勉強になった
  - ・初めて評価表を使用した評価をしました。自身のみで考えるのは難しかったです。評価点数ではなく、なぜその点数にしたかをディスカッションするのが楽しかったですし、他者の意見はとても参考になりました。
  - ・評価についての理解が深まり、また感情表出については、感情が出ていないという点に気付かせていただき、また一つ、視点の学びが増えました。
  - ・自己の振り返りにもなる。
  - ・自分では気付かない視点があつて勉強になった。
  - ・経験豊富な相談員の方々の相談対応の視点を聞いて大変勉強になりました。

10. がん相談支援センターにおける質保証についての講義や意見交換を通して、今後自施設や地域で取り組みそうだと思うことについてご記入ください

- ・評価表を用いて定期的な振り返り機会、研修や情報の確認と更新
- ・内規やマニュアル、情報源リストの整備とスタッフへの周知や録音はすぐには難しいため、今回の事例を用いて意見交換ができればと考えています。
- ・マンパワー不足でなかなか病院全体で考えていかないと難しい状況とは思われるも自己の振り返りや全体ミーティングに活かせるように思う
- ・評価表を用いてのディスカッションを定期的に行っていくこと。

がん相談員カンファレンスで活用していきたいと思います

- ・当院では、業務時間内に2ヶ月に1回モニタリングを開催しており継続していきたい。これまでは、事例提出者にも評価項目すべてに意見をもらっていたが、最後に意見をもらうスタイルで進めてみる。

評価表の活用方法で、今までは全部使用しないといけないと思っていたが、一部のみ（主訴とニーズのみでも）使用して繰り返し考えることで（思考の）癖をつけるという方法はすぐに取り組めると思いました。自施設の情報収集ができていないので、各診療科にコアをなる人を決めて情報収集するなど、参考になることが聞けました

- ・原本をそのまま活用するかは別として、共通のツールで、定期的に評価することを計画していこうと思いました。また、がん相談支援センター内だけで解決しない場合、どの部門やスタッフに依頼するか、システムを整え明記しておくことは新たなきづきだったので、ぜひ作成を検討していきたいと思います。

自施設の他相談員にもQA研修の必要性を伝えていきます。

- ・自分の事例の振り返りや迷った時の判断のために使えると思った。
- ・録音機能を利用した電話相談の評価（評価表を用いて）
- ・録音機器はあるので、部署内で評価表を使ってモニタリングできるよう取り組みたいと思います。

音声での振り返りは難しいが、評価表を用いて事例検討することならできるかもしれない

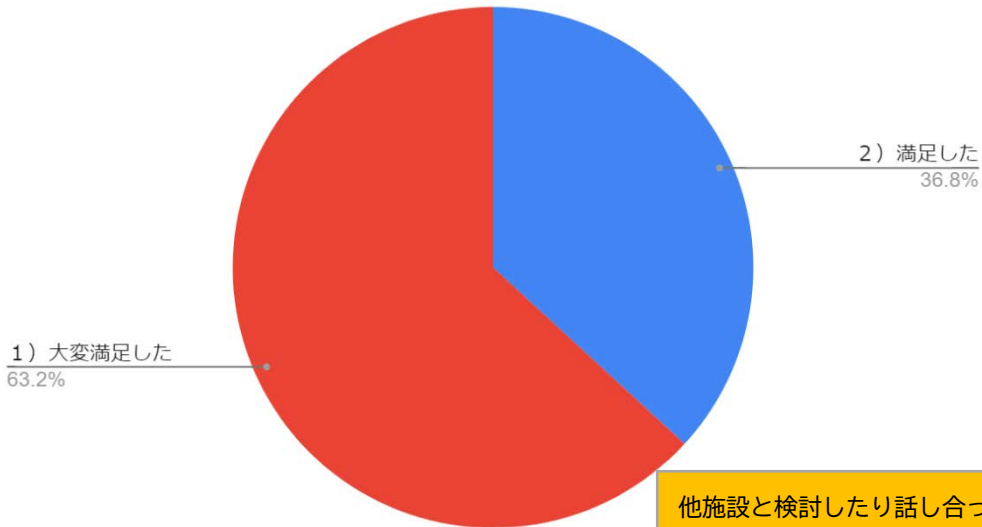
- ・他施設でそのように評価をしているのか聞くことができました。自施設でも評価表を用い質保証ができるよう仲間と話し合ってみたいと思いました。

- ・データの整理を行う 模擬事例を用いた評価表の活用で、評価することを身につける

まずは、情報の集約、最新化など相談員の対応が一定水準は確保できるように整えていくところから始めたい。

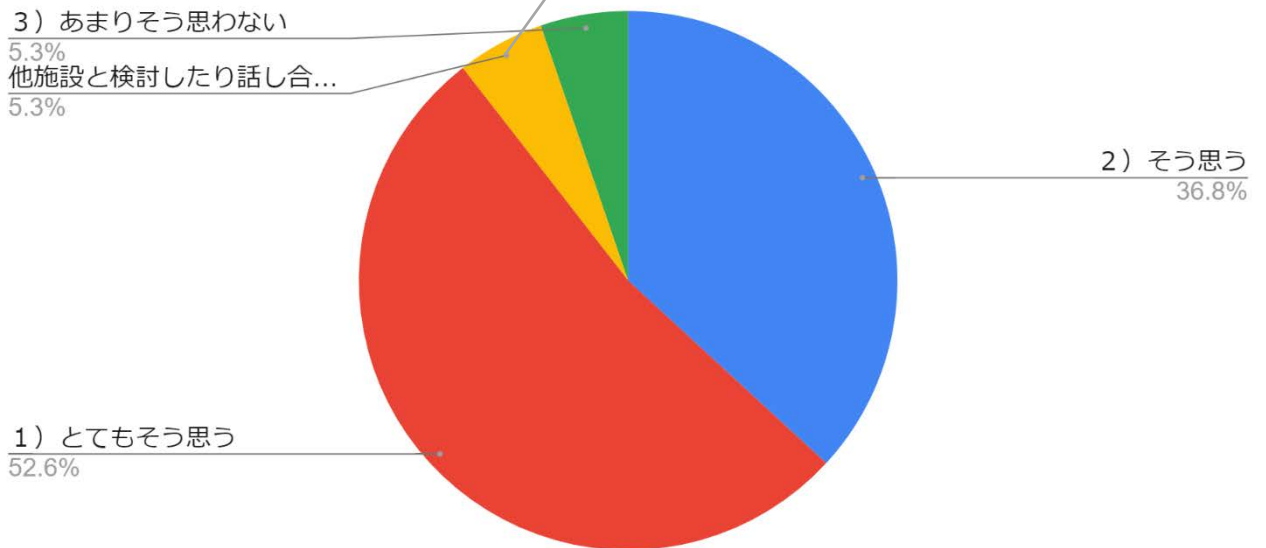
- ・自施設でもQAを実施してみたい。
- ・まずはマニュアル類や情報源一覧表などを確認するところから始めようと思います。

### 11. 今回の研修内容の満足度についてご記入ください



他施設と検討したり話し合ったり情報交換する場には参加したいと思いますが、講義は動画でも聞けるようになっているので、その部分の工夫があれば参加したいと思います。

### 12. QA研修にまた参加したいと思いますか



### 13. 今回の研修会についてご意見・ご感想をご記入ください

- ・お忙しい中、研修準備と実施ありがとうございました。職種や経験値の違う方の意見が聞けておもしろかったです。自分の思考傾向への気付きになり次の相談対応へ繋げていきたいと思いました。
- ・とてもわかりやすい講義でした。苦手なグループワークを楽しい時間にできました。ファシリテーターの皆さんの会の進行や一緒に意見交換をして頂く事で学びが大きかったです。ぜひみんなにも参加を勧めたいと思いました。
- ・自身の未熟さを痛感し、落ち込んでしまいましたが、そこから質の向上について再認識できた良い機会でした
- ・相談員としての経験が浅いので、他の方の意見を聞くことで、勉強になることがたくさんありました。今回学んだことを少しでも生かしていけたらと思います。

- ・講義は非常にわかりやすかったです グループワークも他施設のがん相談対応の話も聞けて楽しかったです
- ・講師の話がとても分かりやすくて良かった。グループワークもファシリ・サブファシリも入り5名であり、全員が意見を言い合えたと感じて良かった。はじめてのハイブリッド開催であったが、講師（リモート）との距離感を大きく感じることなく進行できたのは良かったと感じた。
- ・3年ぶりの対面での研修会に少し緊張していましたが、ファシリテーターの方やサブファシリテーターの方の問いかけが優しく、すごく話しやすい雰囲気を作ってくくださったので、心理的安全性が保たれていると実感できました。本当に参加できて良かったです。ありがとうございました。
- ・何度かQA研修に参加しないと、評価表を使った意見交換が難しいと感じた
- ・講義もとても分かりやすく、ファシリテーターの方々も、和やかな雰囲気でも進めてくださり、とても楽しい研修になりました。本当にありがとうございました。研修や意見交換はとても楽しいのですが、4時間の研修は、とても疲労し集中力が低下します。初回参加者ならそれくらい必要かもしれませんし、リピーターが今後、増えるとするならば、省略バージョンにする方法もありがたいなと思いました。（研修時間が固定しているなら仕方ありませんが）とてもいい研修なのですが、事前課題（国がん動画および、評価表記入）にかかる時間が比較的多く、他の方に紹介するのにややハードルが高い印象を受けました。国立がんセンターの事前学習用E-learningと当日の講義が同じなのであれば、事前にその旨のご紹介や、ここだけは見てほしいと指定する等、或いは、事前学習用を推奨するのであれば、当日の講義時間はポイントのみでもいいのかも・・・とも思ったりです。（ただ、なかなか集まる機会が何度も取れないとなれば、一度に長時間も・・・という考えも有りだと思います）
- ・久しぶりの集合研修、顔が見えるすばらしさを実感しました。
- ・他施設の相談員の方と集合研修は初めてだったのでいい経験になりました。
- ・相談対応の評価を行うことのおずかしさや、重要性について実感できました。
- ・何度経験してもQA研修は学びと気づきがあります。他のスタッフにも受講してほしいと思っています。
- ・様々な意見が聞けて勉強になりました
- ・久しぶりに対面研修に参加しました。オンラインの良さもありますが、対面の良さを改めて感じる事ができました。またメンバー、ファシリテーターの方も優しい方ばかりで楽しく研修に臨むことができました。現地までの距離は少しありましたが、機会があれば今後もぜひ参加したいと思います。
- ・今回、初めての集合研修でしたので、より密に意見交換ができ楽しかったのと、学ぶが深まり、良かったです。
- ・久しぶりの対面でのグループディスカッションができ、緊張もありましたが有意義な時間が持てました。エッセンスをうまく取り入れていければと思います。
- ・グループワークでメンバーの皆さんに助けをいただき、楽しく受講できました。また機会があれば参加したいです。
- ・ファシリテーターの方が明るい雰囲気を作ってください、とても和やかで楽しかったです。

#### 14. 今後の研修会で取り上げてほしいテーマや運営に関するご希望があればお聞かせください

- ・集合研修が定期的であれば参加したいです。
- ・時間配分や内容共にとても良かったです。
- ・コミュニケーションスキルの向上に向けた実践形式の研修



・対応困難な事例へどのように対応しているかなどいろいろ情報交換ができるような場があればいいなと思います。

・困難事例の対応方法について意見交換会

・集合研修は沢山の人と交流ができるので可能なら集合開催がよいと思いますが、県外からの参加者が（特に四国圏外）参加しづらいのでオンライン参加者が複数名いればハイブリッド開催も可能かと思いました。

・AYA世代のがん患者さんへの支援について

## QA 研修アンケート結果分析

### 1. 理解度と満足度

・QA 参加あり 9 名、参加なし 10 名

・参加ありのうち 8. 理解できたか については「とてもそう思う」78%、「そう思う」22% 参加なしのうち「とてもそう思う」60%、「そう思う」は 40%

→参加したことがある人の方が理解度が高い。

・参加ありのうち「大変満足した」78%、「満足した」22%

参加なしのうち「大変満足した」50%、「満足した」50%

→参加したことのあつた人の方が満足度が高い。

⇒QA 研修受講歴がある方が理解度、満足度共に高い傾向がある。

QA は繰り返し参加することで、多職種における視点、気づきや理解が深まると共に、満足度が上がると考える。

### 2. 参加理由について

（割合は別紙の通り）

・「職務上必要と感じた」、「自己研鑽」、「テーマが面白そうだった」との意見が多い。このように自発的に参加した研修生は「また参加したい」との意見だったが（一人条件付き）、「勧められ」て参加した研修生のみ、次回参加について「あまりそう思わない」とのことだった。理由は不明。

### 3. 今後取り組みそうなことについて

・評価表の活用について、「音声での振り返りはできないが評価表を用いて事例検討する」や「一部主訴とニーズのみでも使用してみる」「自己の振り返りや全体ミーティングに活かす」等、録音からモニタリングまで全部の取り組みは難しくても、一部でも工夫して活用していきたいという意見が多数あつた。

・情報収集については、「診療科ごとにコアになる人を決める」、「どのスタッフに依頼するか考えシステムを整える」という意見もあり。研修で情報提供された他施設の取り組みが参考になっている。

・「今回の研修を自施設で意見交換する」「評価表を定期的に活用する」「QA 研修の必要性を伝える」「評価表を用いて質保証ができるよう仲間と話し合う」「振り返りや迷った時の判断に評価表を活用する」「モニタリングに取り組んでみる」「マニュアルや情報源一覧を確認、整備するところから始める」等、今回の研修を通して、まず自施設で取り組みたい具体的な内容や前向きな姿勢が見られた。

#### 4. 講義について

・「分かりやすかった」との意見が4名（QA研修参加あり2名、参加なし2名）あったが、一方で講義時間が長いとの意見もあり。事前Eラーニングを活用し、当日の講義時間はポイントを絞って行ってはどうかとの意見があった。

⇒今回の講義内容に好評な意見も多数ある為、内容や時間については研修生の参加経験、評価表の活用経験も含めて慎重に検討が必要と思われる。

#### 5. GWについて

・「楽しかった」と回答した人9名。

他施設、多職種、経験の違う人の意見が聞けて良かった、ファシリテーター、サブファシリテーターの進行で和やかな雰囲気だった、話しやすい雰囲気です心理的安全性が保たれていたという意見もあった。

⇒GWでは他施設、多職種等で構成することで視点の違う活発な意見交換に有効と考える。ファシリテーターだけでなく、サブファシリテーターも加わり、共に協力して進行することができた為、良い雰囲気作りにつながったと考える。

#### 6. 集合研修について

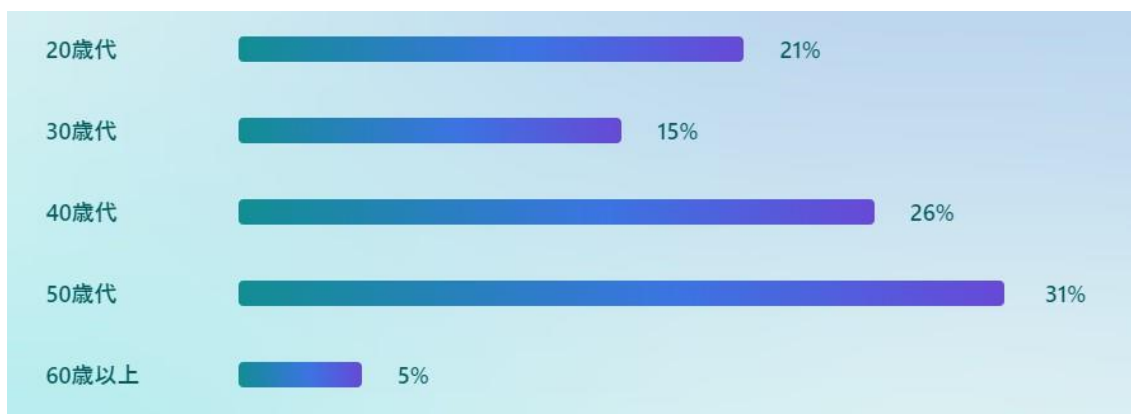
意見あり7名。

お互いの顔が見える素晴らしさ、多くの人と交流できるという面で有意義だったとの意見あり。またそのうち2名は初めての集合研修でより密な意見交換ができ、学びが深まったと意見があった。一方で、オンラインに慣れていたので、周りの話し声や音が気になる、県外の参加者は参加しづらいためハイブリッド開催が良いのではないかと意見もあった。

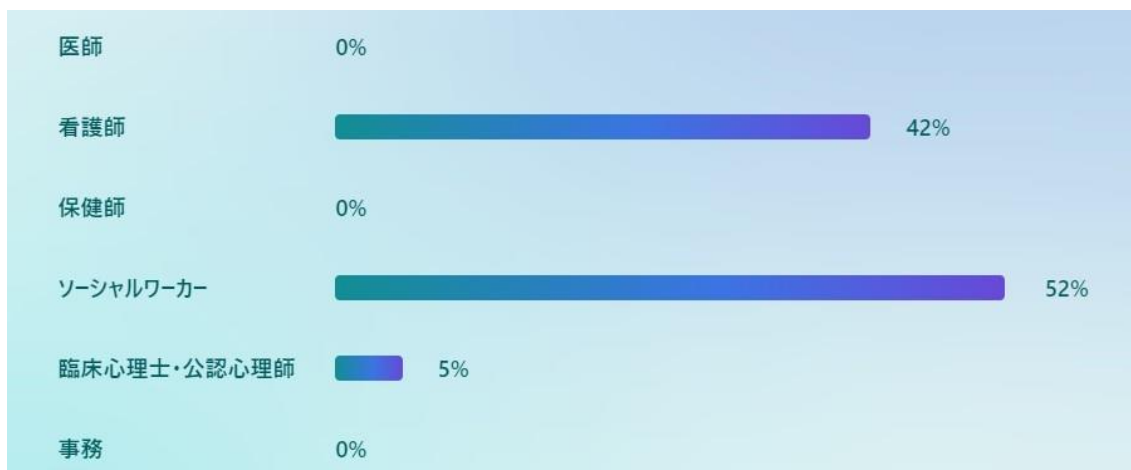
⇒コロナ禍によりオンライン研修が主流となっていたが、改めて集合研修のメリットを実感した意見も多かった。GWがしやすい環境づくりや、広く参加者を募集する場合は遠方からの参加者に配慮したハイブリッド開催も今後検討が必要と思われる。

## 「情報から始まるがん相談支援」～地域展開版～2023.11.11 四国ブロックアンケート結果

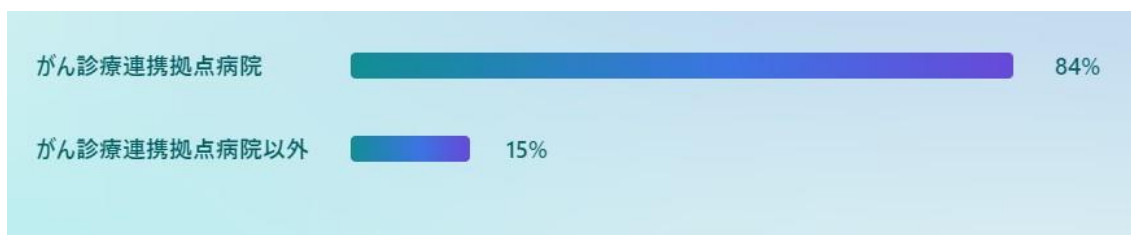
### 1.年齢内訳



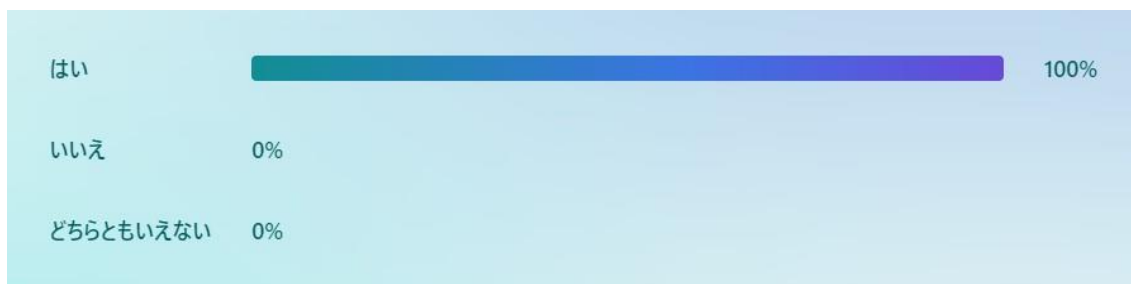
### 2.職種内訳



### 3.所属内訳

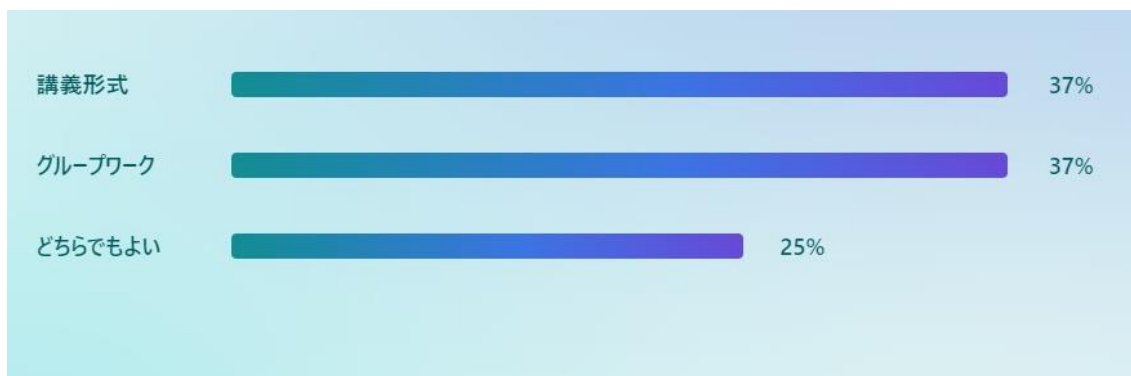


### 4.今回の「情報支援研修～地域展開版～」は、今後のがん相談に役立つものでしたか。





5.今後、どのような研修形式を希望しますか(複数選択可)



6.がん専門相談員のための研修、開催方法についてお尋ねします。どのような研修形式を希望しますか。



7.本研修のご感想、ご意見(開催時期なども)、お聞かせください。



- ・ 情報支援の重要性が学べた。
- ・ グループワークの進行がとてもよくいろいろと意見がでて有意義な研修になりました。ありがとうございました。
- ・ 学びの多い研修でした。相談員として正しい情報を提供し、共に考え意思決定を支えられるような関わりができるように、研修での学びをいかしていきたいです。
- ・ いろいろなご意見を聞くことができたことがよかった。
- ・ 開催時期など、ちょうどよいと思います。

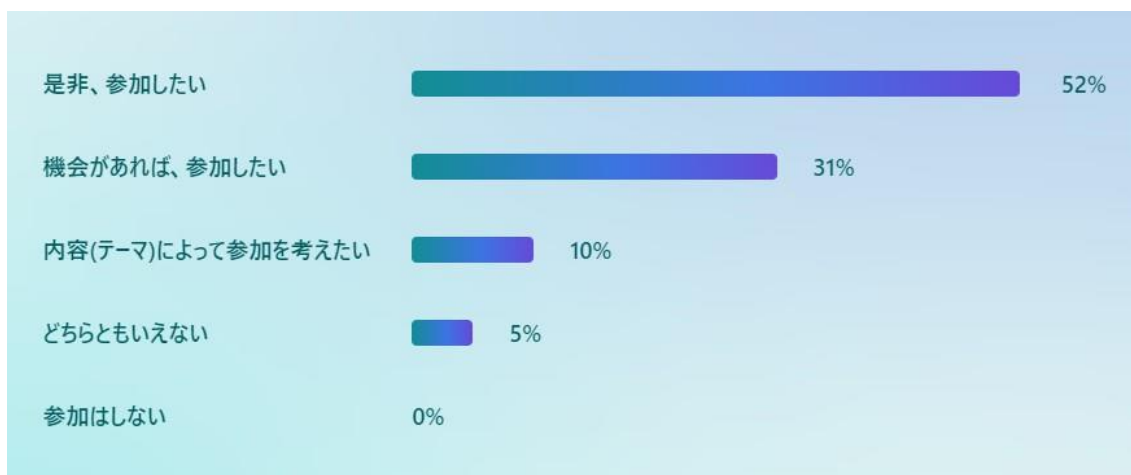
- ・Web 研修を運営するご苦勞もあったかと思いますが、運営スタッフのみなさまのおかげで有意義な研修となりました。特に、GW ではファシリテーター・サブファシリテーターのお二人の進行で人数の少なさをカバーでき、よい議論ができました。大変お世話になりました。
- ・はじめての研修内容であり、とても勉強になった。事前課題として講義内容は把握していたが、研修当日の講義でももう少しじっくり受けたいと感じた。
- ・前回受講したときとまた違う気づきと学びがありました。情報を見極め、支援にどう活かしていくかは本当に難しいと再認識させられましたが、このような研修を繰り返し受けながら自分のスキルを磨き、実践に活かしていくしかないと改めて感じました。運営については、タイムスケジュールの他、細部にわたり配慮や事前の打ち合わせがなされているのを感じました。会の進行もスムーズでグループワークではあまり焦ることなく有意義な意見交換ができたと思います。ファシリテーターの方も、ご自分の意見も述べつつ、出た意見を適宜まとめ確認する作業を丁寧にされており、安心して参加できました。運営スタッフの皆様、大変お世話になりました。
- ・情報支援の研修は過去にも受講しましたが、毎回参考になります。お世話になりました。
- ・定期的に情報支援について見直す、学びなおすために半年に1回は参加したい。
- ・講義はもちろんですが、グループワークで様々な意見を聞くことができ、とても充実した研修でした。
- ・自施設以外のガイドラインの活用方法や取り組みをお聞きできて、とても勉強になりました。今行っている相談対応について、振り返りと今後の方向性が見えた気がしております。
- ・情報支援の研修は2回目です。何度か受けることで理解が深まりましたし、自身の相談対応の振り替えりにもなりました。
- ・四国内で行えるのは、情報更新にも有意義だったと思います。
- ・何度参加しても学びがあります。また、新しい相談員との輪が広がりフレッシュな気持ちになりました。
- ・多職種、他施設の方の意見や施設内での取り組みを聞くことができとても勉強になりました。

8.今後、とりあげて欲しい内容や学びたい内容、四国ブロックで開催希望の研修や取り組みがあれば、お聞かせください。



- ・ AYA 世代へのがん相談支援センターの取り組みや患者会との協働、がん相談のフィードバック体制など取り組みを共有するような会
- ・ ACP について
- ・ AYA 世代への支援について
- ・ 情報支援研修の後半(国立がん研究センターで行われている 2 日間コース研修の 2 日目)のものも開催して欲しい
- ・ 今は思い浮かびませんでした

9.今後、四国ブロック開催のがん専門相談員に携わる方のための研修会に参加したいと思いますか。



がん診療連携拠点病院等の整備指針に「外来初診時から治療開始までを目的に、がん患者及びその家族が必ず一度はがん相談支援センターを訪問する」ことが明示されています。みんなで、診断期の意思決定支援について考えてみましょう。

これから  
増えるよ！

# 相談支援におけるがん患者の 診断期の意思決定支援

参加無料

集合研修

会場：  
四国がんセンター  
地域医療連携研修センター  
3階研修室①

2024年  
3月16日(土)  
13:00~17:00

申込先

申込期限 **2024年2月12日(日)**  
以下申し込みフォームよりお申込みください  
<https://forms.gle/Bh5iu958mJvZnhp48>

※2月16日までにメールで結果を通知します



内容：講義とグループディスカッション

講師：愛媛県立中央病院 がん看護専門看護師 武田千津先生  
人間環境大学 公認心理師 武田知也先生

対象：がん診療連携拠点病院・がん診療連携推進病院のがん相談支援員

定員：20名程度

本研修は、国立がん研究センターが実施する「認定がん専門相談員制度」におけるⅢ群研修の単位認定申請をしています。

主催：愛媛県がん診療連携協議会 がん相談支援専門部会

お問い合わせ：四国がんセンター 患者・家族総合支援室 (福島)  
TEL (089) 999-1209 FAX (089) 999-1210  
松山市南梅本町甲160番 E-mail: 519-tsupport@mail.hosp.go.jp



# 令和 5 年度 第2回 がん相談支援センターのフィードバック体制についての意見交換会 議事録

令和 5 年11月 30 日(水) 15:00~17:00

出席者	医療機関	参加者	医療機関	参加者
23 名	愛媛県立中央病院	季羽、渋谷、武田、箱岡、松田	愛媛大学医学部附属病院	塩見、古川
	済生会今治病院	斉藤、松岡	済生会松山病院	藤原
	四国中央病院	高木	市立宇和島病院	黒田、沼田
	市立八幡浜総合病院	高橋	住友別子病院	高橋、山地、和田
	HITO 病院	守屋	松山赤十字病院	高須賀、中田
	四国がんセンター	大西、羽藤、福島		(敬称略、五十音順)

## 1. 四国がんセンターアンケート集計結果報告

2021 年から 3 年計画の患者アンケートを実施した。今年は 8 月実施の予定で前回情報共有できなかったため、この機会に共有。結果は添付資料の通り。来年度からは共通項目を含めたアンケートを実施する。

## 2. 来年度の活動について

### ①アンケートの内容について(共通質問項目内容、質問項目数など)

- ・フィードバック体制整備を導入したところなので、しばらくは前回決定した共通質問項目で継続してみる。
- ・3つの共通質問項目と自由記載欄を盛り込み、アンケートを実施することで合意した。その他の追加項目や質問内容は、各施設で課題や背景が異なるため任意とし、追加した項目や工夫した点を次回意見交換会で情報共有、意見交換できるとよい。
- ・自由記載欄の質問文言は特に決めないが、ネガティブなことも含めていろいろな意見等が記入していただけるようにするとよい。率直な意見を収集する工夫として、「がん相談支援センターに対するご意見、ご要望、ご不満などがあれば・・・」と自由記載欄に表記した例を共有した。

### ②実施アンケート結果の情報共有時期、方法など

- ・毎年度夏頃にある第1回専門部会で全体情報共有し、事前に担当で意見交換会を行う。この流れを今後も継続していく。
- ・期間を決めてアンケートを行う場合は、第 1 回専門部会前の意見交換会に間に合うように実施する。通年で実施する施設は 1 年分の結果を報告する。
- ・結果についての共有方法(様式)については、来年度の専門部会で全体共有する前に再度検討する。
- ・推進病院については、アンケートを実施した場合は結果を共有していただく。アンケートの実施如何にかかわらず、意見交換会での情報共有や意見交換には参加していただく。

## 3. 協議会としての方向性

- ・当県としては、相談支援の質の向上につながるように、個別対応の評価を中心に共通項目の内容を絞り込んで選定したが、今後意見交換をしていくなかで、周知や広報等、他の課題がみつければ適宜質問項目を変更したり追加していく。

- ・今年 1 回目を実施してみて、対象者や配布のタイミングなどの課題が見えたので、その課題や対策をしっかりと話し合っただ次回に臨み、結果や取り組みの共有を行っていく。そのためしばらくは同じ内容で継続していく方が良い。
- ・上記意見を踏まえ 3 年間は同じ内容で継続していくこととする。
- ・フィードバック体制の整備についての他県の捉え方や動向等がわかれば情報共有し、今後の取り組みに活用する。

#### 4.その他

##### ①次回からの議事録について

意見交換会が今後も継続するため、議事録を残す必要がある。このフィードバック体制整備を広報ワーキングの活動の 1 つとするため、次回以降、広報ワーキングの議事録担当表に沿って輪番制とする。次回議事録担当は済生会松山病院。

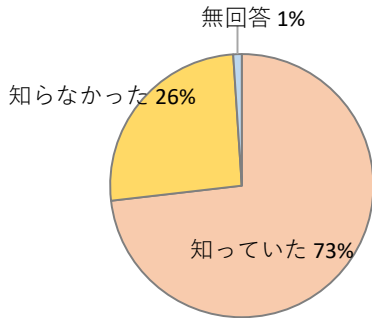
##### ②「がんサポートブックえひめ」定期発注について

発行以降、不定期ではあるが、大体 3 年ごとに増刷や改訂をしている。在庫がなくなった施設からの申し出に合わせて発注するが、大体発注時期が決まっていた方が見通しが立ちやすいとの意見があり、年に 1 回四国がんセンターがとりまとめて発注することとする。次回発注は来年の大体この時期で予定。改訂については、それ以降で必要に応じて検討。愛媛県がん対策推進計画に「がんサポートブックえひめ」の配布数が盛り込まれる可能性が高い。来年度以降、県から協議会として配布数をまとめて報告するように要望があがる可能性がある。今後、がんサポートブックえひめの活用を積極的にお願いとするとともに、施設ごとの配布数の把握をお願いした。

# がん相談支援センター利用アンケート結果（四国がんセンター）

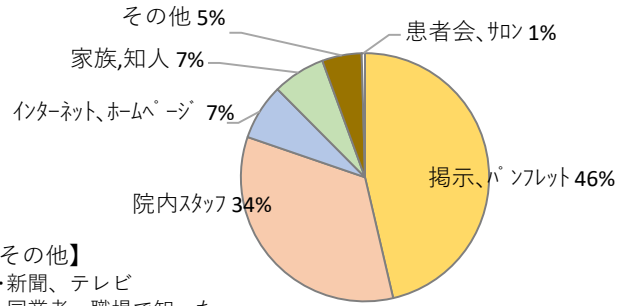
アンケート配布期間	2023年8月21日～22日
対象者	上記期間に当院外来受診した患者
アンケート配布数	334
アンケート回答数	287
回答率	86%

## 1 がん相談支援センターを知っていましたか



## 2 がん相談支援センターを知ったきっかけを教えてください

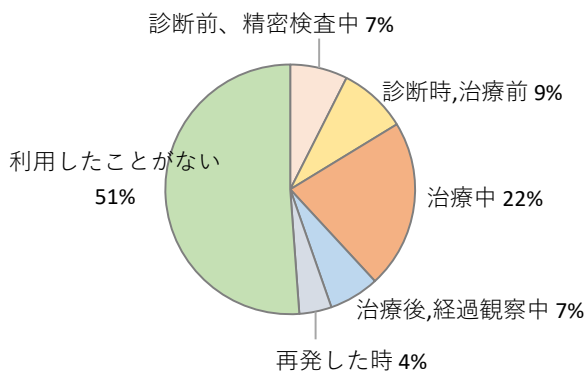
1で知っていると答えた人



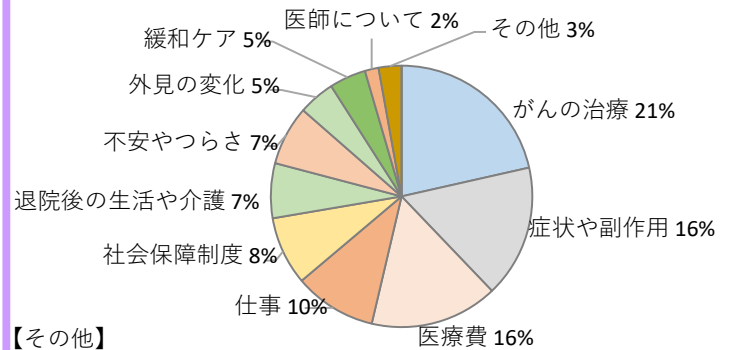
### 【その他】

- ・新聞、テレビ
- ・同業者、職場で知った
- ・入院中に病室に来てくれた

## 3 どんな時期にがん相談支援センターを利用しましたか



## 4 どんなことを相談しましたか(または相談したいですか)

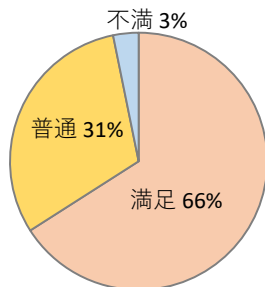


### 【その他】

- ・遺伝性について
- ・退院後の食事について

医師以外の職員 0%

## 5 がん相談支援センターを利用した感想を教えてください



### 【満足】

- ・私の気持ちを理解して、一緒に考えたり調べたりして本人にも話をしてくださってうれしかったです。
- ・質問に真摯に対応してくれた。
- ・疑問に思っていたことを専門の方に詳しく教えていただき治療に対し安心してのぞむことができました。
- ・大変丁寧に時間をかけて説明してくださいました。
- ・親身に聞いていただけだと思います。
- ・3年前のことで具体的に覚えていないが満足だったように思う。
- ・ハローワークにも行ってみたりした。結局就活はダメだったけど。
- ・暖だん。安らぐ。

### 【普通】

- ・6年前なのではっきりとしていないが、生命保険か休業の事を聞いたと思う。

### 【不満】

- ・はっきりとした回答がなかった。

## 6 ご意見ご要望など(自由記載)

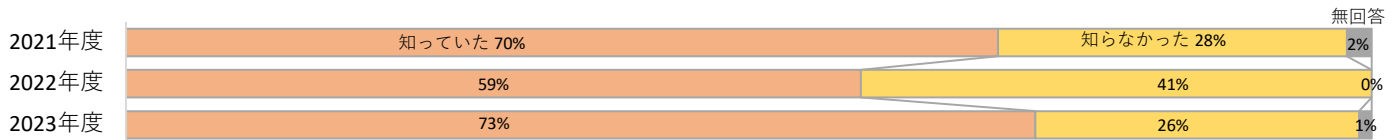
- ・初めての入院の時、不安なことがありセンターに行きました。他の方のやり取り中で、待つものに何の声掛けもせず、そのままその方と話をしていた。一言声をかけてほしい。もう二度と行く気はない!!と思いました。
- ・用事がないとなかなか立ち寄りづらいですね。場所的に支援センター自体の取り組みはとても素晴らしいと思っています。いつもありがとうございます。
- ・小さな悩みにもていねいに聞き取りをお願いしたい。
- ・病気が発覚して直後が一番不安になった。自分からすすんで支援センターに行くのは思いつかなかった。診察室で簡単なパンフレットをもらったりして、そのままセンターに行ってみることができれば、その後もセンターを頼りにして自分で調べたり聞いたりできると思う。
- ・周知はできていると思うが、利用は疑問。積極的にセンターの方から患者に働きかけることが大切と思う。患者にもよるが質問、相談は何をすればよいかわからない。センターの経験から判断して働きかけてほしい。
- ・医師に聞き忘れた事も支援センターの方で質問させてください。
- ・入院することになった時に相談したい。
- ・現在のところ相談する事がないので、これから先何かあれば助けて頂きたいと思っています。



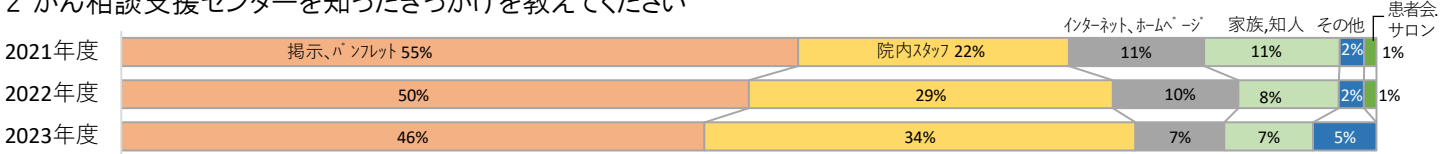
# 2021年度、2022年度、2023年度 アンケート結果比較（四国がんセンター）

2021年 n=159 2022年 n=294 2023年 n=287

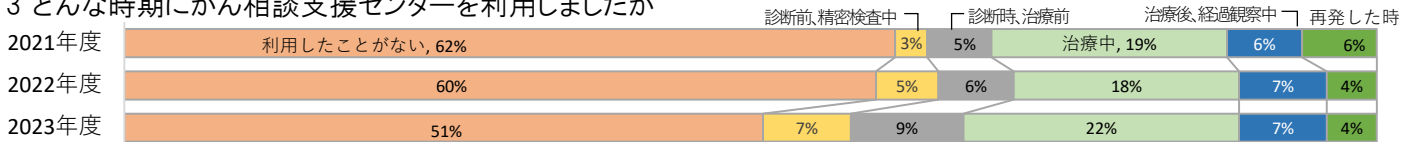
## 1 がん相談支援センターを知っていましたか



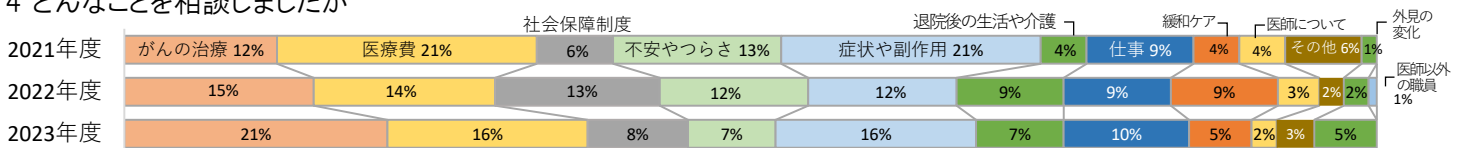
## 2 がん相談支援センターを知ったきっかけを教えてください



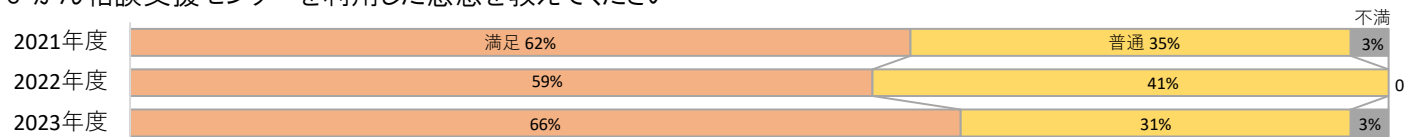
## 3 どんな時期にがん相談支援センターを利用しましたか



## 4 どんなことを相談しましたか



## 5 がん相談支援センターを利用した感想を教えてください



### 【結果】

- ・ がん相談支援センターを知っていた人は73%で昨年よりも増加した。3年の平均は67%となった。
- ・ 院内スタッフから相談支援センターを知った人の割合が増加している。
- ・ がん相談支援センターの利用については、昨年同様「利用したことがない」が52%と最も多かった。
- ・ 利用したことがある人のうち利用時期は治療中が22%で最も多く、診断から治療が始まる前の利用が低い傾向がある。
- ・ 相談内容は、がんの治療についての相談が増加。その他、医療費や症状・副作用を中心に多岐にわたっている。
- ・ 利用時の満足度は「満足」が最も多く昨年度よりも増加した。3年の平均は63%となった。
- ・ 利用時の感想「不満」回答が3件あった。1件目は精査中の医療費・仕事についての相談で「はっきりした回答がなかった」とコメントがあった。2件目は治療中の不安についての相談で、コメントはなかった。3件目は「不満」にしているものの、相談支援センターの利用はなく、相談内容や、ご意見・ご要望などの記載もなかったため詳細は不明。
- ・ ご意見、ご要望には患者家族総合支援センター「暖だん」と相談支援センターを混同しているものが数件あった。
- ・ 他の相談者の対応中、相談待ちをしている方へのご案内、声掛けについてのご意見があった。

### 【課題】

- ・ ご意見・ご要望にもあるように、相談支援センターの周知は進んできているが、相談したい人が利用につなげていない場合もある。
- ・ 窓口相談対応中に、相談待ちの人がいる場合の配慮や応援体制について検討する必要がある。
- ・ 相談対応に不満があったとしても、アンケートでは十分に意見を記入していただけない。

### 【対策】

- ・ 相談支援センターの周知について、院内スタッフからの紹介が利用率につながっている現状を受け、院内スタッフの周知、院内連携を強化し、積極的に利用につなげるようにする。また治療開始のタイミングとなる入院時に相談員からも積極的に声掛けを継続する。
- ・ 相談待ちの人がいる場合は、相談中の人に一言お断りを入れてから、相談待ちの人にお待ち頂くよう声をかける。長くお待ちせしそうな場合は、Aブロック受付に協力を依頼し他の相談員に応援を依頼する。または、近くでお待ちいただくよう案内看板を立てておき、相談終了後、相談員から声をかける。
- ・ 外来患者を対象とした定点アンケートの他、常時ご意見を収集できるよう、ウェブアンケートなども検討する。またアンケート用紙にQRコードをつけ、後で入力できるように工夫する。



# 令和5年度愛媛県がんサロン担当者の交流会開催報告書

記載者：愛媛県立中央病院 外山

## 1. 日時

令和5年10月31日（火） 14:00～16:00

## 2. 方法

Zoom オンライン

## 3. 参加人数

医療関係者（県内がん拠点・推進病院のサロン担当者）：19名

愛媛がんサポートおれんじの会：2名

## 4. 内容

1) **開催挨拶**：愛媛県がん診療連携協議会、がん相談支援専門部会長 羽藤慎二

2) **講演**：『広島赤十字・原爆病院におけるがんサロンの運営について』資料あり

講師：広島赤十字・原爆病院

がん相談支援センター がん看護専門看護師 札埜和美様

オンラインサロン開催までの流れ、準備の具体的方法について。準備に時間がかかったが、物品（カメラ）の確保と人材の確保を行い、ハイブリット開催まで行うことができたなどご講演いただいた。

### 質疑応答：

- ・オンラインでは一人ずつしか話せないで、語り合いのやりとりで参加者同士の語り合いがスムーズに行うのは難しい。講義形式であればオンラインでも問題ない。オンラインだからといって参加者は増えるわけではないが、九州などの遠くからでも興味のある講義については参加してもらえることができた。オンラインの良さを考えながら継続していこうと思っている。
- ・年間の計画については、講師の方には日頃からの関係性があり、協力いただく体制ができています。2月に1年間の企画を考えて予算をとっている。
- ・高齢者の参加への対応については、事務員が手伝ってくれている。自宅で参加できるメリットもあり、準備が大変で労力の必要なことではあるが、オンラインは必要なものであると感じる。

### 3) 現状報告・意見交換

① 各サロンの現状報告(各病院の資料あり)

・HITO病院（HITOサロン）

茶話会では飲み物の提供はしないが、持参のものは飲めるようにしている。

・済生会今治病院（なでしこサロン）

イオンモールでのサロン開催は、済生会が町づくりの提携を結んだのがきっかけで、自分たちが地域に出ていってサロンを開催しようという試み。1/年は宗教家の方に来ていただき、命について考える会を設けている。

- ・住友別子病院（さくらの会）  
毎月10名前後参加されており、半数の方はリピーターである。基本的には外来患者を対象としているが、緩和ケア病棟入院中の方など、参加希望に応じて病棟にて参加の可否を判断している。
- ・愛媛県立中央病院（みきゃんサロン）  
テーマを設けた会については、今後検討しているのは、「気持ちの向き合い方」「化学療法について」「食事について」など、参加者の興味がありそうなところで考えている。
- ・松山赤十字病院（クロス・ステーション）  
対面開催を再開している。外来患者に制限している。
- ・愛媛大学医学部附属病院（あいほっとふれあいサロン）  
外来患者に限定しており、参加者は少ない。
- ・市立宇和島病院（さくらサロン）  
参加者が増えると時間が足りなくなり、時間を戻して欲しいと参加者からの希望がある。ぴあサポーターと相談できている。
- ・市立八幡浜総合病院（八幡浜おれんじサロン）  
コロナ感染拡大のため中止後、まだ再開ができていない。
- ・四国がんセンター（ひまわりサロン・がん哲学外来 坂の上の雲暖だんカフェ）  
AYA 世代サロンではハイブリット開催にチャレンジした。  
入院中の患者が集まる機会がない施設でオンラインを設定し、県内の施設を超えてオンラインで一緒に協力して取り組むことができないかと考えている。まずは、自施設のサロンの参加者と入院中の患者がオンラインでつながれるよう取り組む。

今回、各病院での現状報告を聞くことができ、課題や工夫されている点などの情報を共有する場を設けることができた。

入院中の患者がサロンに参加することができていない現状などが浮き彫りとなり、県内で協力できることがあれば検討していきたい。

# みんなではじめよう！ がん患者の外見変化への支援

がん治療に伴う外見の変化は、患者さんにとってとても強い苦痛となっており、その支援の1つとしてアピアランスケアがあります。がん患者さんがその人らしく社会生活を送ることができるように共に考え、支援するための方法を学びませんか。

日時

2024年1月20日(土)

13時00分～16時30分(受付12時30分～)

## 第1部 講義 (13:10～15:00)

講義① アピアランスケアの基礎知識と相談対応の方法  
アピアランスケアに関する最新情報

講師 藤間 勝子 国立がん研究センター中央病院  
アピアランス支援センターセンター長

講義② 四国がんセンターのアピアランスケア活動について

講師 橋田 愛 四国がんセンター  
がん化学療法看護認定看護師

見学 四国がんセンター 暖だんウィッグ・マンマ製品展示室の見学

## 第2部 意見交換会 (15:00～16:30)

※参加希望の方のみでグループディスカッション  
『各施設でのアピアランスケアについて』

場所

四国がんセンター  
地域医療連携研修センター 3階研修室①②③

定員

100名程度

対象

病院や地域の医療保健関係機関でがん患者さんの外見変化への支援に関する業務や相談対応に携わっている方・携わる予定の方、又は管理者

申込

URLまたはQRコードより事前にお申込みください

<https://forms.gle/Houp1wrjUeepk12b7>

申し込み期限：2024年1月15日(月)



《主催・問い合わせ》 四国がんセンター 患者・家族総合支援センター暖だん  
TEL：089-999-1209 メール：[519-tsupport@mail.hosp.go.jp](mailto:519-tsupport@mail.hosp.go.jp)

《共催》愛媛県

《後援》 予定：愛媛県がん診療連携協議会、愛媛県医師会、愛媛県看護協会、愛媛県医療ソーシャルワーカー協会、愛媛県薬剤師会





独立行政法人 国立病院機構  
四国がんセンター



NPO法人 愛媛がんサポート  
おれんじの会

ハイブリット開催



Rare Cancer Center

# 希少がん みんなで語り合おう！

第1回 中皮腫セミナー in 四国

－治療と社会保障、患者会について－

2024年1月27日（土）13時30分（13時開場）～15時

お申し込み：どなたでも参加可 無料

オンライン参加：当日URL：https://zoom.us/j/98564716282

現地参加：四国がんセンター 患者・家族総合支援センター【暖だん】



現地参加のみ：10時～15時【個別労災などの相談会】

（NPO法人 中皮腫サポートキャラバン隊／中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会）



開会挨拶：山下 素弘 四国がんセンター 院長

## 施設紹介

【四国がんセンターの紹介】 山下 素弘

【国立がん研究センター 希少がんセンターの紹介】 加藤 陽子

## 講演

【悪性胸膜中皮腫－薬物療法－】

上月 稔幸 四国がんセンター 臨床研究センター長／呼吸器内科

【労災など社会保障について】

大西 明子 四国がんセンター がん相談支援センター／医療ソーシャルワーカー

【患者会の紹介】

右田 孝雄 NPO法人中皮腫サポートキャラバン隊 理事長

## ディスカッション

司会：松本陽子 NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会 理事長

【四国がんセンター】

上月 稔幸・山下 素弘・大西 明子・福島 美幸（患者・家族総合支援室長）

【NPO法人中皮腫サポートキャラバン隊】

右田 孝雄

【国立がん研究センター】

加藤 陽子・川井 章・吉田 達哉（中央病院 呼吸器内科 医長）

閉会挨拶：川井 章 国立がん研究センター 希少がんセンター長

## 共催

国立病院機構 四国がんセンター／NPO法人 中皮腫サポートキャラバン隊

中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会／NPO法人 愛媛がんサポートおれんじの会

国立がん研究センター 希少がんセンター

## 後援

一般社団法人 全国がん患者団体連合会／愛媛新聞社／愛媛県がん診療連携協議会

# あなたにとって最適な治療につながるために

～ 19年ぶりの患者向け胃癌治療ガイドライン発行企画 ～

講演 知っておきたい

① 胃がん薬物療法の情報！

## 「バイオマーカーによる 最適な治療の選択」



講師  
**仁科 智裕 氏**

四国がんセンター 院長補佐  
がんゲノム医療センター部長

講演 知っておくと役立つ

② サポート情報！

## 「あなたや大切な人が がんになったら」



講師  
**福島 美幸 氏**

四国がんセンター  
患者・家族総合支援センター  
患者・家族総合支援室長

## 質疑応答・ パネルディスカッション

司会 **松本 陽子**  
NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会  
理事長



司会 **轟 浩美**  
認定NPO法人希望の会  
理事長



2024

参加  
無料

# 2.17 (土)

13:00 ~ 15:00

ハイブリッド開催

### 開催目的

日本胃癌学会が患者向けの発信を大切に考えていることを知っていただき、患者家族が科学的根拠の乏しい情報に惑わされないことを目的としたセミナーです。  
本イベントは、患者向けガイドラインの理解を深めるべく、質疑応答の時間も大切に考えております。  
患者さん、ご家族だけではなく、医療者、このテーマに関心がある方全てにご参加いただけることを願って開催いたします。

**会場** 現地会場 | 国立病院機構四国がんセンター  
患者・家族支援センター「暖だん」  
※限定20名(ご希望が多数の場合はお近くの方を優先いたします)  
オンライン | Zoom ウェビナー

**対象** 患者・家族・一般・医療者・学生・その他ご関心がある方どなたでも

**共催** 国立病院機構四国がんセンター  
認定NPO法人 希望の会・NPO法人 愛媛がんサポートおれんじの会

**運営** 一般社団法人 ピーベック

**お問い合わせ** 認定NPO法人 希望の会 ☎080-5507-4117 ✉info@npokibounokai.org

Zoomウェビナーの  
お申し込みはこちら▼

下記URL又はQRコードから  
お申し込みください。



<https://bit.ly/489e6Wa>



## Zoomウェビナー お申込みからご視聴までの流れ

### □ お申込み時(定員:先着500名)

- ①申込み方法(表面)欄にあるQRコード又は申込みフォームURLからお申込みください。
- ②申込み後、『no-reply@zoom.us』より参加用のURL付きメールが送付されますので、**メールが届いていることを確認**してください。
  - \* メール受信拒否設定(ドメイン指定受信)をされている場合は『@zoom.us』からのメールを受信できるようにしてください
  - \* 受信ボックスに届いていない場合、迷惑メールボックスなどご確認ください



### □ 事前準備(開催前まで)

パソコン、スマートフォン、タブレットのお好きな端末からご参加できます。**当日使用される端末に『Zoom』アプリをインストール**してください。 \* パソコンはブラウザからも参加できますが、安定性が落ちるためアプリのインストールをお勧めします  
使い方について詳しくは、ピーベックHPの『Zoomの使い方解説ページ』をご覧ください <https://ppecc.jp/activity/post/000143/>

### □ ご参加方法(当日)

- ①事前登録されたメールアドレス宛に、当日参加用URLが届きます。
- ②**当日参加用URLをクリック**すると、ブラウザが立ち上がり視聴ページへアクセスできます。 \* サインイン・サインアップは必須ではありません

.....【注意事項】.....

当日の設備・通信トラブルや、ご利用の端末におけるトラブルや制限など、不測の事態によりご覧いただけない場合があります。その際は、ご容赦くださいますようお願いいたします。

音声や画像の接続テストが行えます。

- ①下記URLまたはQRコードからテストページにアクセスしてください。
- ②ページが開きましたら「参加」ボタンを押してください。

<http://zoom.us/test>



### ご紹介(共催)

#### 希望の会 とは…

胃がんの患者さんや家族の方に適切な医療情報や交流の場の提供、胃がんの正確な診断、早期発見、治療に関する情報発信を行っている認定NPO法人です。



病を告げられた時、狼狽えてしまうのは自然なことだと思います。「正確な情報」は納得できる選択の根拠となります。「相談できる場所」があることを知ることは、生きる日々を支える適切な支援にも繋がります。希望の会は、誰もが安心して生きられる社会を目指し、『知ることは力になる』をモットーに活動しています。

患者・家族の交流会、医師による勉強会・講演会を開催すること、がん患者団体として公に声をあげていくことで実現をはかります。

<https://npokibounokai.org>

希望の会

検索



### ご紹介(運営支援)

#### ピーベック とは…

#### どうしようもある、世の中へ

一般社団法人ピーベックは、病気をもつ人や、そのご家族、患者会、さまざまな企業、地域のみなさんとつながり、「病気があっても大丈夫」と言える社会の実現をめざしています。病気をもつ人の“こえ”には、世の中に新しい価値をもたらす力があります。わたしたちはその“こえ”をあらゆる方法で集積・発信することで、新しい価値に変換し、病気や、それによって被る不利益が「どうしようもない」ものではなく、何かしら解決策がある「どうにかしようがある」状態、「どうしようもある世の中」を叶えていきます。

<https://ppecc.jp>

ピーベック

検索



あなたのがん体験を仲間のために役立てませんか？

# ピアサポーター養成研修

## 受講者募集

「ピアサポート」とは、がんという病気を経験した人やその家族が、「体験を共有し、ともに考えること」で、同じ立場の方（「ピア」＝「仲間」）を支援することをいいます。主な活動の場としては、県内の病院や市内で開かれているサロン（語り合いの場）などです。今回は、これらの活動に関心のある方を対象とした研修です。

日時／2024年2月29日（木）10時～16時

会場／済生会今治病院 6階研修ホール

対象／がん体験者

（がんと診断されたことのある方、その家族など）

内容／1.ピアサポートとは何か？

2.より良いコミュニケーションのために

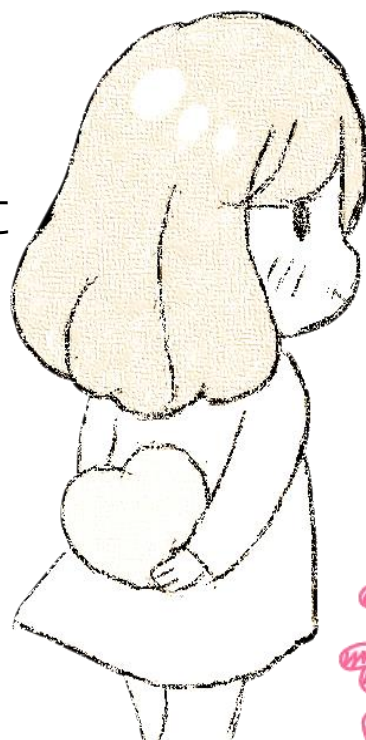
3.がん医療の基礎知識

4.ロールプレイ（実習）など

**受講無料**

定員12名

先着順、定員になり次第締め切らせていただきます



■申し込み方法／FAXまたは電話でお申し込みください

- FAXの場合裏面を申込用紙としてご利用ください。
- 電話の場合、お名前、ご連絡先、お立場（患者、家族など）をお知らせください。

FAX:0898-47-2826

☎ :0898-47-6048(9時～16時:休診祝日を除く)

申し込み締め切り：2024年2月20日（火） 16時



# 「ピアサポーター養成研修」参加申込書

申込フォーム	FAX番号：0898-47-2826
お名前	
ご連絡先電話番号	
お立場	患者（治療中 経過観察中 治療終了） 家族 その他か（ ）

申込みに関する個人情報は、本セミナーのみに使用いたします

申し込み締め切り：2024年2月20日（火） 16時

- お問い合わせ：済生会今治病院 総合医療支援室  
0898-47-6048（直通）月～金曜日 9時～16時（休診祝日を除く）



主催／済生会今治病院